

Ⅱ 全学FD講演会・研修会

1 講演会・研修会の内容及びアンケート結果

(1) FD 講演会:我が国の「知の総和」向上の未来像

～高等教育システムの再構築～の答申を受けて

講師:学長 市川 博 先生

日時:令和7年7月29日(火)16:30～18:00 Zoomによるオンライン開催

令和7年度 前期 FD講演会

我が国の「知の総和」向上の未来像
～高等教育システムの再構築～
の答申を受けて

講師 学長 市川 博

我が国の「知の総和」向上の未来像の答申を
本学に置き換えてお話しいたします。

日時 7月29日(火)
16:30～18:00

開催方法 Zoom
URLはUNIPA配信

主催:大妻女子大学ファカルティ・ディベロップメント委員会

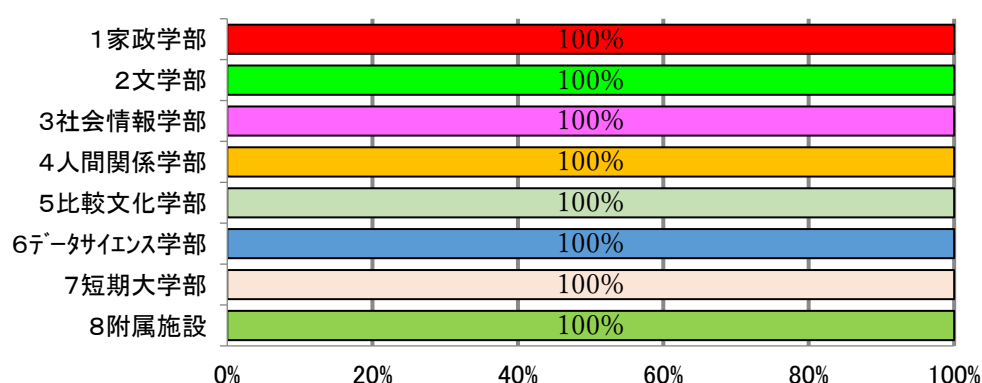
FD 講演会アンケート集計結果

< テーマ > 我が国の「知の総和」向上の未来像～高等教育システムの再構築～の答申を受けて
 < 講師 > 学長 市川 博 先生
 < 開催方法 > Zoom によるオンライン開催 + 録画配信
 < 開催日時 > 令和7年7月29日（火）16:30～18:00
 < 録画配信 > 令和7年8月5日（火）～ 公開中
 < 回答期間 > ①令和7年7月29日（火）～9月11日（木）23:59
 ②令和7年9月12日（金）～9月24日（水）23:59（専任教員未回答者対象）
 < 未回答者 > 0人
 （研修等除く）

【参加者（アンケート回答者）の所属】

所属	出席者			所属教員数
	Zoom	録画	合計	専任教員数
1 家政学部	30 人	36 人	66 人	66 人
2 文学部	8 人	32 人	40 人	40 人
3 社会情報学部	18 人	13 人	31 人	31 人
4 人間関係学部	15 人	17 人	32 人	32 人
5 比較文化学部	10 人	9 人	19 人	19 人
6 データサイエンス学部	7 人	6 人	13 人	13 人
7 短期大学部	11 人	7 人	18 人	18 人
8 附属施設	3 人	14 人	17 人	17 人
9 非常勤講師	24 人	75 人	99 人	
10 助手	1 人	22 人	23 人	
11 事務職員	5 人	1 人	6 人	
合 計	132 人	232 人	364 人	

【所属別参加率】（専任教員）

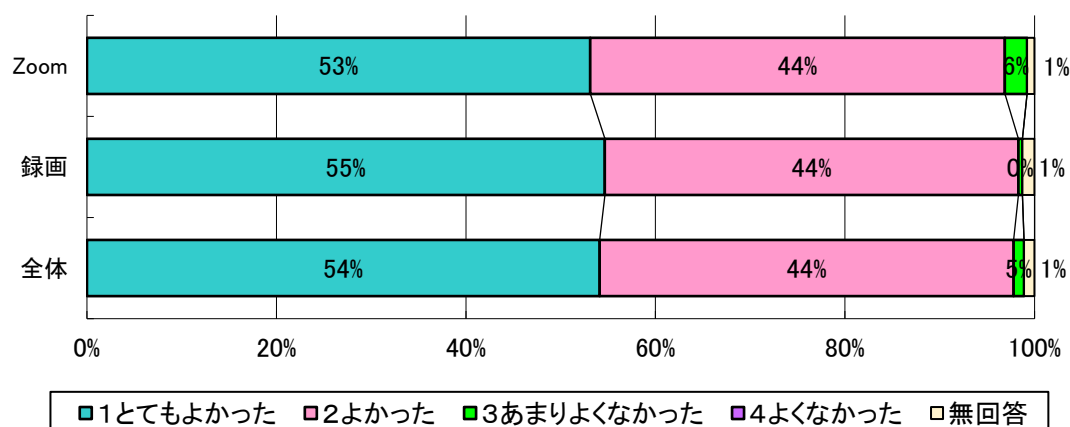


以下、提出されたアンケートの集計結果（アンケート回収総数 364 人分を対象）

問 1 講演会の内容、運営などについて当てはまるものを選択してください。

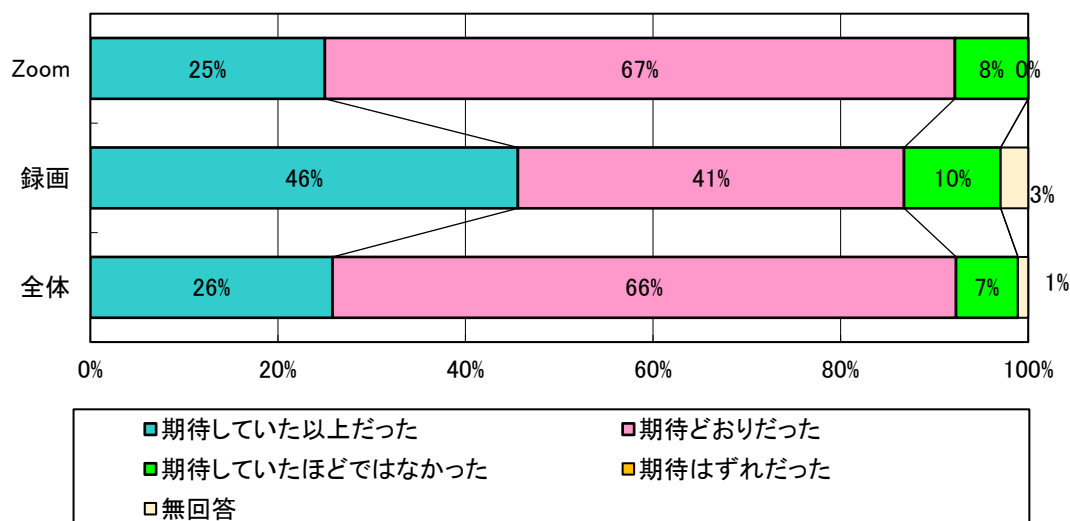
（１）講師について

選択肢	Zoom		録画		全体	
1 とてもよかった	68	(53%)	129	(55%)	197	(54%)
2 よかった	56	(44%)	103	(44%)	159	(44%)
3 あまりよくなかった	3	(6%)	1	(0%)	4	(5%)
4 よくなかった	0	(0%)	0	(0%)	0	(0%)
無回答	1	(1%)	3	(1%)	4	(1%)



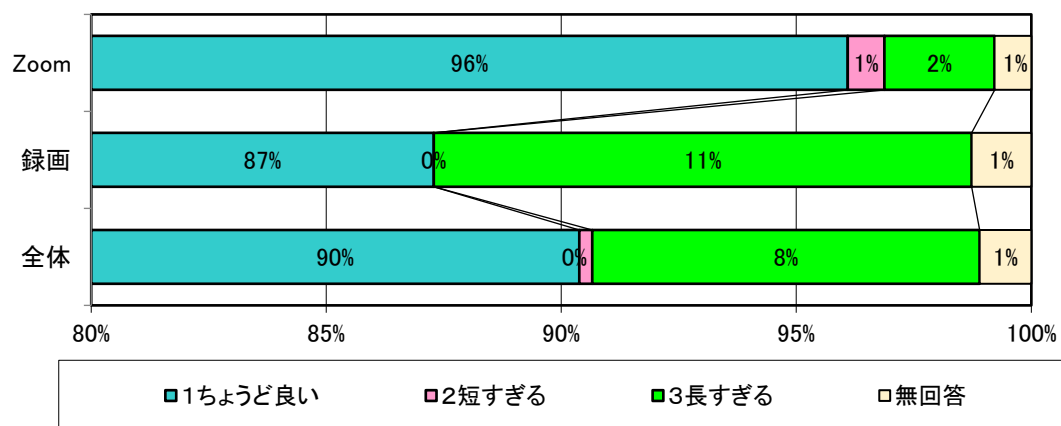
（２）内容について

選択肢	Zoom		録画		全体	
1 期待していた以上だった	32	(25%)	62	(46%)	94	(26%)
2 期待どおりだった	86	(67%)	156	(41%)	242	(66%)
3 期待していたほどではなかった	10	(8%)	14	(10%)	24	(7%)
4 期待はずれだった	0	(0%)	0	(0%)	0	(0%)
無回答	0	(0%)	4	(3%)	4	(1%)



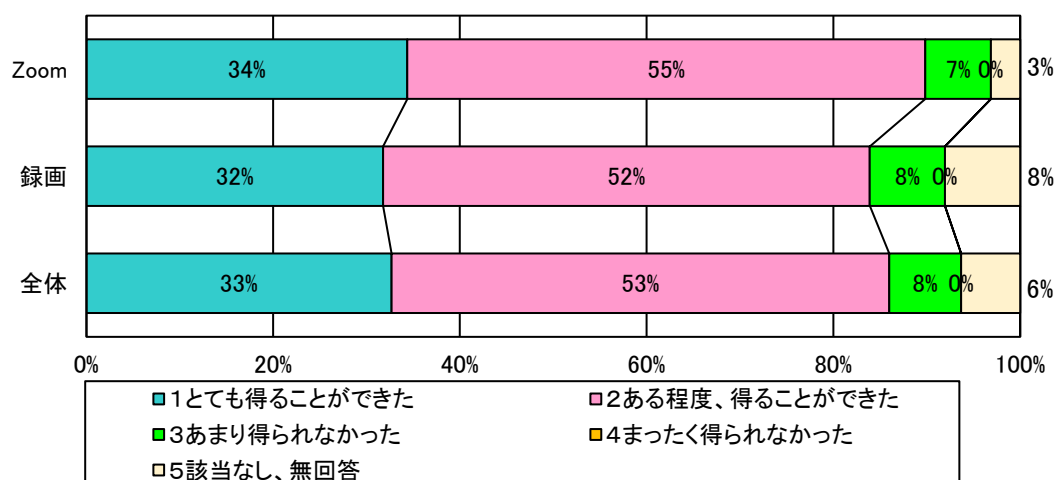
(3) 時間について

選択肢	Zoom	録画	全体
1 ちょうど良い	123 (96%)	206 (87%)	329 (90%)
2 短すぎる	1 (1%)	0 (0%)	1 (0%)
3 長すぎる	3 (2%)	27 (11%)	30 (8%)
無回答	1 (1%)	3 (1%)	4 (1%)



(4) 自身の授業内容および方法の参考となる情報・知見について

選択肢	Zoom	録画	全体
1 とても得ることができた	44 (34%)	75 (32%)	119 (33%)
2 ある程度、得ることができた	71 (55%)	123 (52%)	194 (53%)
3 あまり得られなかった	9 (7%)	19 (8%)	28 (8%)
4 まったく得られなかった	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)
該当なし、無回答	4 (3%)	19 (8%)	23 (6%)



(5) 今後希望される講演テーマについて（複数選択可）

選択肢	全体
1 今回の講演テーマ関連	78 (11%)
2 国の高等教育・教育改革の動向	120 (17%)
3 本学の教育体制・教育改善の動向	191 (26%)
4 授業やゼミ・教材開発に関する事例紹介	110 (15%)
5 成績評価と効果的なフィードバック方法	76 (10%)
6 初年次学生の教育支援	77 (11%)
7 キャリア教育・進路指導	76 (10%)

[今回の講演テーマ関連]

- ・今回の講演テーマ関連として、「社会のニーズにあった教育の提供」について、各学部のカリキュラムや教育資源の具体的な内容を聞いてみたいと思いました。
- ・本学の現段階考えている改革の方向性 女子大学のあり方
- ・レイトスペシャライゼーション 学生の学び質保証体制について
- ・地域や企業と連携した取り組みや、大学間（短大間）の研究以外の連携（協定など）について情報を知りたいです。
- ・配慮の必要な学生への支援活動、また本学の現状、事例に関するテーマを希望します。
- ・社会人や社会との一体的教育のあり方や方法について

[国の高等教育・教育改革の動向]

- ・「知の総和」が示されて以降の、中教審での議論等のフォローアップをいただきたい。
- ・日本の高等教育におけるAIの影響について、私たちは考察する必要があると考えます。

[本学の教育体制・教育改善の動向]

- ・教育改革に対する学生参画について以前もテーマとして取り上げていただいたかと思いますが、次の認識評価でも学生参画が重点となるので再度テーマとして希望します。
- ・AIを活用した教育改善について学びがたいです。
- ・各部門の職員と教員との間での意見交換会のような機会があったらいいなと感じます。生き残っていくことということは同じであっても、立場・職務上考えていることはお互いに異なると思います。お互いの考えについてざくばらんに意見交換・すり合わせができる場があればよいと思います。
- ・教育活動と研究の両立について
- ・教員と職員が懇談する機会が欲しいです。多摩キャンパス時代にはあったと思いますが、コロナ禍後にはお互いそうそう食事会にも誘いづらくなっている、特に若手の方はそうなのではないかと思います。非常勤教員との懇談会後の懇親会のように、ざくばらんな会食を通じて教育・経営をめぐってお互いの話を聞く（言うのではなく）機会があることは、より効率的なFDにつながるのかなと思います。
- ・全学をあげての広報戦略（各学部学科にボトムアップ型の対策を求めるのは限界が来ていると思います）
- ・FDに関する他大の先進事例や他の女子大の事例などを伺いたいです。
- ・改革の方向については、継続的にテーマとなると良いと思います。

[授業やゼミ・教材開発に関する事例紹介]

- ・レポートや卒論の票割について、現状、無視できない状況です。AI票割チェックツールの導入などについて、メリット、デメリット、他大学の導入状況など。
- ・高等教育における新しい授業形態の模索 学生のアウトプット能力を向上させるための取り組み例など
- ・AIによるレポート作成が課題になっています。正しい使い方、ルールなどについて教えていただきたい、ご検討いただければ幸いです。
- ・学生のチャットGPTなどの使用にたいする最新の対応、対応について聞いてみたいです。
- ・障がいのある学生への対応について。学生のAI使用に対する対応について。
- ・授業の特別配慮を要請した学生への対応

[キャリア教育・進路指導]

- ・社会情勢の動きをキャッチするのはとても苦手なので、学生の進路指導の際に今どきの就活事情についてお聞きしたいです。

[その他]

- ・高大連携、高校教育
- ・一度大学の広報戦略に資するような講演会を企画してはいいのでしょうか。大学教員は教育と研究の専門家ですが、広報の専門ではないので、各学科とも広報については手探りでやっているかと思います。よって、他大学のやり方や業者の受託業務の対応方法、さらには一般企業の場合などにも踏み込んで話を聞かせていただければ、大学全体としてはもちろんのこと、各学科としてどうしたらいいかについての参考になるかと思います。
- ・大学の効果的な募集広報について、「ブランド化」に成功した大学からの招へい（例）近畿大学
- ・効果的な大学広報活動について
- ・入試制度への対応について知りたいです。社会の求める人材を4年前（2年前）に獲得する、という発想が必要ではないのでしょうか。
- ・令和に入って、学生の質がさらに変化したと考えられる。教員の大声などが耐えられないといった相談をよく受ける。専任教員のみならず、非常勤の先生にも、どういった行為がハラスメントに該当する可能性があるのか共有できるような全学的FD（ハラスメントアップデート）講習があったら良いと感じている。

問2 今回の講演会で、お気づきの点、記憶に残った点、ご意見などございましたらご入力ください。

- ・本学の現状、「知の総和」の概要についてとてもわかりやすく説明いただきありがとうございました。大学を取り巻く厳しい環境の中、中計とあわせ、自部署で本学存続(女子大学として)のために何ができるのかを今回の講演に照らし考えていこうと思いました。
- ・「知の総和答申」から最新報道までを含めた高等教育機関の動向、ねらいについて改めて整理できました。ありがとうございました。
- ・時間の都合もあったかと思いますが、1つくらい質問を受け付けてもよかったのではないかと思います。
- ・市川学長就任に合わせ、講演いただきありがとうございました。少子化により大学を取り巻く環境、とりわけ本学も厳しい状況にある中ですが、答申の内容と本学の状況と照らして説明くださり、興味深く聞かせていただきました。教学マネジメントの構築、学修者本位の教育、出口の質保証等、高等教育機関として大切なことではありますが、近年入学してくる学生の質の低下により、学修の意欲が感じられない、授業のレベルを下げざるを得ないような状況もあるのではないかと推察いたします。また規模適正化、設置認可厳格化の方向に向かっていく中で、本学が今後向かっていく方向について改めて指針を伺いたいと感じました。
- ・18歳人口の減少は予想を上回るスピードで進んでおり、女子大学の志願者離れも顕著です。こうした厳しい環境の中、大学改革はもはや待ったなしの課題であることを今回の研修を通じて強く実感しました。今後は、社会のニーズを的確に捉えた学部・学科の改組を進めつつ、規模の縮小も視野に入れた「縮小均衡」の戦略が不可欠です。例えば、跡見学園女子大学では、わずか2年間で入学者数が半減するという衝撃的な事例が起きています。その結果、入学定員を半減し、新座キャンパスを閉じて、文京キャンパスに統合することを発表しました。本学も他人事ではなく、危機感を持って現実に向き合う必要があります。多くの大学では、教職員がFD・SD研修を通じてこのような危機を認識してはいるものの、その認識が具体的な改革目標や実行可能なアクションプランにまで結びついていないのが実情です。生き残るのは、現状を直視し、改革を具体的に実行できる大学だけです。逆に、危機感を抱きながらも動けない大学は、確実に衰退の道をたどることになると感じました。
- ・学生の能力を最大限高めるための「教育の質の向上（学生ファースト）」をするためには、何が必要で大切なのかを自分なりに考えて行きたい。
- ・学長が話されていたように、様々なトレードオフ的な関係を持つ難問を解決して行かなければならない状況があらためて理解出来ました。
- ・今、どのようなことが問題になっており、どのように解決せねばならないのかがよくわかりました。ありがとうございました。
- ・受験生世代の減少の主たる要因は政治と行政にあると思います。現在、大企業、富裕層と一般層との乖離はかなり進み、一般層は子づくりを諦める割合が増えており、今の状態では今後共、減少が止まらないと思います。こうした根本の解決をしないまま、大学の現状の手当だけを考える様な施策では不十分と思われます。
- ・現在の女子大の状況及び、補助金を数パーセント獲得するための努力等、本学の厳しい状況がよく理解できました。
- ・今回、大学を取り巻く様々な問題点と展望についてお伺いしました。指摘された内容は当たり前のことではありますが、これを実際に行うことはなかなか困難を伴うものだと思います。大学は18歳人口（出生率）の減少を踏まえて、拡大路線から縮小にかじを切る時代になっております。国もそれを推進していて、様々な後押しをする施策を考えています。本学も同分野の学科専攻が少なからずありますが、統合し、縮小する必要があると思います。また、収支決済が著しく悪いものは、別なものに転換する必要があります。そのためにニーズをいち早くキャッチすることが必須になります。このために専門の部署が必要になるかもしれません。
- ・女子大不利といわれる中において、大妻が健闘していることがわかった。厳しい現状の中、生半可な体制では生き残れないと思う反面、近年の大妻には「管理」優先の息苦しさを感ずる。
- ・ご講演のテーマであった「知の総和」とは何を意味するのか、良く理解できた。2040年までに20万人以上の18歳人口が激減し、また、大学の補助金の条件などが厳しさを増すなかで、大妻女子大学がどのような教育の質保証を社会的

に示していくべきなのか、教員として何ができるのか、考えさせられた。

- ・女子大、本学の置かれている立場を再認識することができた。
- ・定員増によりクラスが増えた際にはクウォーター制を考えていたので、推進されていると聞き安心しました。
- ・少子化に伴う大学の厳しい現実、収容定員未充足・超過のペナルティ、経常費補助金のしくみ etc. についていろいろと学べた講演会でした。「知の総和」(数×能力) 向上のため、質の向上、規模の適正化、アクセスの確保が必要であり、教学マネジメントの確立の必要性や本学の様々な取り組みについて知ることが出来ました。ありがとうございました。
- ・教育の現状をめぐり広く一般的なことを紹介しながら、大妻の現在の立ち所と問題点、目指す方向を要領よくまとめ、説明できたところ、感心しました。一教員として、どう行動でこのような現状の要請に応えるかは、興味深くて、色々考えさせられた。
- ・本学の現状について、限られた時間ではあったが、分りやすく、理解できた。それを踏まえ、教員個人として、学部として、組織の一員として取り組むことについて、改めて考察できた。学長や理事長との対話を求めたいとも思いました。2 キャンパスの利点をどの様に捉えられているか、現時点ではデメリットが際立ち、保護者や学生への説明責任を現場のみが果たしているようにも感じるため、教員負担も格差を感じる。学部間の、学問としても豊富な資源の活用についても、恩恵を受けづらい事実をどの様に捉え、今後の経営に取り組まれるのか、方針を伺う機会を今後に期待している。
- ・豊富なデータや資料によって、現状と課題が理解できた。「適正化」という言葉とその意味するところが印象に残った。
- ・意見と質問を混ざって書きました。学長のご講演にもありましたが、急激な大学進学者の減少が予想されるなかで、本学への入学者の質の維持を図るためには、定員規模の適正化が避けられないと思います。そのためには教職員の人員削減も必要となってくると思いますが、定員規模の削減と、それに連動した教職員の削減の目標設定について、具体的な検討はどの程度進められているのでしょうか。この問題は、全学的な現状認識の共有や合意形成に時間がかかります。本日のお話でも、あまり時間が残されていない印象を持ちましたが、いかがでしょうか。
- ・国、および、本学の現状と問題の基本的な事柄について良く分かった。
- ・現状について系統立てて説明頂き、より理解を深めることが出来た。
- ・助成金6%増を目指すというのはよくわかりましたが、本学としてどのような理念で、どの点に重点を置くのかをもう少し明確化していただきたかったです。
- ・本学で取り組むべき課題を明確にした上で、それらの課題と関連がある文科省の方針に絞って簡潔にご講演をいただきました。
- ・高等教育システムの再構築への答申を受けての講演で、文科省令和7年5月12日の中教審教育答申第255号を分かり易く丁寧にご説明いただきながら、学長先生のお考えも踏まえての講演で全体的な流れや焦点となる案件などのお話を聞くことが出来、大変に感謝しております。
- ・国の動向を理解し、本学の取り組みを共有しながら連携を図っていくことが必要であると思いました。また、「教育研究の質の向上」「社会のニーズにあった教育の提供」を念頭に置き、カリキュラムや授業内容・方法について考えていきたいと思いました。
- ・少子化に向け大学が進むべき方向性が見えてきました。
- ・これから本学が取り組んでいかなければならない様々な改革課題について知ることができました。少子化の中で生き残ることは想像以上に困難なことであると感じました。
- ・まず、今回は中教審の示した指針と本学の体制とのすり合わせに関するお話でしたので、3、4、6、特に6の質問項目は適切ではないと思われます。感想としては、内部の体制は2018 答申の要請するものを一通りは整えたということですので、補助金獲得のためにさらなる努力が必要であるということと理解しました。他方で、中教審の答申はマクロレベルで大学の足並みを揃えさせるために発信されるものであり、個々の大学の生き残りの論理とはあまり一致しません。よって、これはこれとして受け止めつつ、別途大妻として生き残りのための経営戦略を立てていく必要があります。講演前半部分はこれについて刺激を与えるものでした。現在オープンキャンパス来場者に対しては各学科それぞれの、高校生を惹きつけるための努力が払われていますが、その前の段階、すなわち大妻のオープンキャンパスに来させること自体が勝負の大きな分かれ目なので、その求心力を全国的に増すためにどうしたらいいかという広報戦略が今後ますます大事になっていきます。全学的には、他大学の広報との差別化を図るべく、どのようなことを世に(高校生とその父母に) アピールすべきなのかを考え、各学部と各センターにある既存のリソースの再確認と見せ方の工夫が、加えて世の中が求めるものに対応するための学部横断的な新規リソースづくりのための体制構築が必要だろうと思います。そのためには、各学科の現行の教育コンテンツの特徴をアピールするだけでは不足するのであり(どの大学も同じような努力を払うでしょうから)、それを包含しつつ、他大学との違いを一目でわかるようにする、建学の精神に基づいた学院の理念をどういう言葉でアピールしていくかが問われます。どんなに教育コンテンツが似ていても最後まで同一にならないのは建学の精神という歴史的に変えられない「オーセンティシティ」だからです。そのためには、創立100周年の際に設定した、「次の100年」を見据えた超長期ビジョンの作成過程に立ち戻り、そこで行われた建学精神の掘り起こしをなぞりなおすことから始め、その後の十数年で変化した外部環境を勘案して、そこに何を加えるべきかを検討することが求められます。
- ・現状の大学をめぐり厳しい状況及び本学の方向性について総合的に理解しました。
- ・方針の具体的な施策が示されていなかった。総論で終わっていた。

- ・文科省の方針を改めて確認する機会となりました。喫緊に生き残りをかけた改革が求められています。第二弾の全学FDとして、5年後に本学がどのような状況に置かれているか、様々な推計値をもとに考えることも有効なのではないかと思います。
- ・かねてから、レイトスペシャライゼーションや同時履修科目の絞り込みは、日本の大学のカリキュラム履修において、必要なものだと考えていたが、近年の学生の質の変容に伴い、一層、検討すべき事柄になってきたと感じる。クォーター制を導入せずとも、セメスター制のままで、～概論Ⅰ、～概論Ⅱなど、実質的に通念になっている科目を、週に2コマ開講（必ずしも連続開講する必要はない）にし、半期化することは可能だと考える。また、カリキュラムツリーがしっかりしていれば、全ての学生が同じような科目を履修し卒業するのではなく、比較的平易な科目を多く履修するもの、難易度の高い科目まで履修するものなど、学生の能力に応じた多様な履修パターンを提示できると考えている。そして、初年度における全学的な「リテラシー教育」の開発と全学共通教育科目での必修化が必要であると思った。
- ・プレゼンテーションは近い将来の状況を明確にします。個人的にも学部も改善に向けて努力を続けます。
- ・文科省の推進する『我が国の「知の総和」向上の未来像』について、全体的によく理解することができた。
- ・規模の縮小＝無計画な人員削減であった場合は、学生支援の質の低下につながると思われる。「職員の高度化」とあるが、定期試験監督業務に対し、教育支援グループの課員は、監督に当たる我々が真剣に読み、おこなおうとしているマニュアルに書かれていることすらあいまいで良いと言う。例年おこなう定期試験ですら職員の能力低下が伺える。このような状況下で具体的に何ををもって「職員の高度化」をするのだろうと感じた。
- ・大学が置かれている現状と課題について理解することができました。
- ・少子化に伴う大学の定員充足率や今後の統廃合リスクについて、具体的なデータを交えて説明があり、大変現実的な課題だと感じました。特に女子大学の充足率の推移には衝撃を受けました。レイトスペシャライゼーションやクォーター制の導入など、他大学の取組事例にも触れていただき、自学での可能性を考えるきっかけになりました。
- ・大学淘汰の時代が急加速で迫ってきていることを実感します。トレードオフという単語を多く使用されておりましたが、まさに生き残りをかけるには、本来の学生教育充実を図りつつも文科省等への膨大な書類の作成をしていかなければならないのだと痛感しました。余裕やムダから生まれる知的好奇心が狭まりそうで残念な気がします。規模の適正化をどのように進めていくとお考えなのかが気になりました。
- ・授業の質の向上 学生のニーズにあった、学生の求める社会に出てからのニーズに合った教育の質の向上、そのためのカリキュラムの見直しが必要である。また、弾力的な対応ができるカリキュラムづくりが求められる。大学の適切な規模の検討は今後強く求められることがわかった。学科、専攻レベルで何ができるかを考えたい。地方創世につながる大学の取り組みを検討して、本学でできることを考えたい。
- ・高等教育の現状と課題を答申をもとに解説していただき、説得力のあるご講演でした。ありがとうございました。
- ・今後の大学入学者と女子大学をとりまく現状について
- ・現在の大妻女子大学をめぐる状況について知ることができました。
- ・今後の急速な少子化を見据えて大学としてどのような課題があり、そのようなお考えがあるのかがよく理解できました。
- ・日本の現状から本学の状況までエビデンスをもって再確認することが出来ました。
- ・ICU でレイト・スペシャライゼーションを検討し、導入された先生のお話を伺った時に、何でも見てやろう、何でもやろうとできている学生には、いい方法だと思いました。大妻の学生は意欲的に「何でもみたい」と思うような人は少ないという印象で、親や高校の先生に進められてなんとなく来たという人も割に多く、周りから見られる自分を創れていれば、学問はそこそこの出来でよいと思っているような人が多いように思います。しかし、そういう学生でも、授業のコメントの中で気づいたことを面白がってもっとやってみたいと言う人もいるので、いろいろやってみて、自分が何に最もひかれたかという観点から、自分で自分の学びを決めていくようなスタイルで自律的な学習を意識することによって、もっと意欲的になっていく伸びしろもあるようにも思います。大妻にも導入するのは、実はよい方法なのかもしれないと、本日、大妻の状況に関するお話を伺っていて思いました。
- ・大学が置かれた現状については理解できましたが、今後、どのような取り組みを計画しているのか、もう少し具体的にお話いただければ、と思いました。 女子大の将来を考える際に、資料18頁「多様な学生の受け入れ促進」にある留学生の受け入れや「社会人の学びの場」は必要と感じますが、非常勤講師としてどのように対応していくべきかをお示しいただきたいと感じました。
- ・大学の置かれている状況と認可の在り方について詳細なご説明に感銘を受けた。
- ・市川学長がご提案されていた通りなのですが、かねてから STEAM 教育の充実を図るためには、特にレイトスペシャライゼーションという考え方が重要であり、時流にも合致しており、学生たちの卒業後の人生にとっても有益なアプローチのひとつであろうと認識してきました。ただし、もしこれを本学で実際に運用するとすると、果たしてこれを前面に出してこれまで通り志願者は集まるのか…、4年間で専門領域の学びを習得することが可能なのか…、これまで以上に専門領域内での能力差が顕著になるのではないのか…、卒業後進路との整合性を上手く図ることが出来るのか… などといった懸念の包を強く抱いてしまいます。是非、今後も学長のお考えを実行するための具体的な方向性をお示し下さいますよう宜しくお願いします。
- ・予想以上に少子化のスピードが早く、文部科学省もようやく「我が国の『知の総和』向上の未来像～高等教育システムの再構築」という答申を出すに至ったことがよく分かった。18歳人口だけに頼らない、多様な層の受け入れ（例）市民講座やリカレント教育など）にも積極的に取り組み始める必要性を改めて痛感しました。それによって大学のブランド力の向上が図れるのではないのでしょうか。

- ・大学学長が学生が主体的かつ自律的に学べる環境を構築するために行った講演に感謝しています。私は、本学が文科省との関係をより良くし、引き続き補助金を受けられるようになることを願っています。また、本学が信頼できるインスティテューショナル・リサーチ (IR) の基準を確立できることも望んでいます。さらに、学習者中心の教育という考え方を支持しています。私は長い間、ヨーロッパ大学協会 (EUA) が提唱するアクティブ・ラーニングの考え方を支持しており、その中では教員は情報を一方的に伝えるのではなく、学習を支援するファシリテーターとして、学生と継続的にコミュニケーションを取ることが重視されています。学長が大妻でクォーター制の導入を望んでいることも理解しています。私自身、大学時代にクォーター制で学びました。1 クォーターは10 週間で構成されており、各クォーターでは少数の科目に集中することができ、1 科目につき週2〜3 回の授業がありました。しかし、その授業の進度は非常に速く、学生は常に授業についていくことに不安を感じていました。大妻の学生たちが、クォーター制では授業についていくのが難しいと感じるのではないかと心配しています。
- ・学長先生の講演は分かりやすく、オンラインでしたが聞きやすいペースでお話くださったと思いました。貴重なお話しをありがとうございました。一番記憶に残ったのは、首都圏の女子大学の定員充足率の一覧表です。専門の心理学の領域しか知らなかったのも、〇〇大学の心理は学生確保に苦労しているらしいなど、業界内で噂にはなっていました。改めて一覧表で見ると噂以上に大変なことが分かりました。今のところ社会・臨床心理学専攻は定員確保を何とか出来ていますが、多摩キャンパスの立地でどれくらい現状を維持できるか、と考えると今まで以上に努力しなくてはならないと感じました。教育の質の向上に向けて何ができるのか、今後、10 年、20 年の先を見越した不断の改革が可能なのか、など考える機会になりました。資格が絡むためカリキュラムの改編はなかなか難しいのですが、心理学を学んだ学生のキャリア支援に繋がるような教育を目指したいと思いました。加えて大学院の臨床心理学専攻をさらに充実させることも高校生の志願者増に繋がると思いますので、大学院の良さをもっとアピールできれば良いだろうと考えました。いずれにしても、今我々が置かれている現状を認識する機会となり、今後の学部、大学院の教育の質向上を検討する時間となりました。
- ・今回の答申が「高等教育機関の経営規模縮小」を基調としてまとめられていることがよく理解できました。答申の内容には、随所に「両立不可能」と思えるような相反する要請が散見されると感じます。学長が指摘された「規模の適性化」と「アクセスの確保」のトレードオフの問題の他に、今後「認証制度の精緻化」が進められて受審前の事務作業が膨大になっていくことと、「研究環境の低下要因を除去するための業務負担の軽減」とは明らかに矛盾すると思います。このような一見して両立不可能と思える要求をあえて提示しているのは、これらの要求を満たせる大学だけに存続して欲しいという国のメッセージとも解釈できます。
- ・規模の縮小について、その動きをどの時点でどのくらいの規模の縮小をするのか、学部のこれからを考えるととても重要になってくると感じました。
- ・定員未充足の場合のペナルティーについて詳しく知ることが出来、今後広報と連携して学生募集をしていく必要性をより感じました。
- ・学長の市川先生が自ら数字データを示しつつ、教員全員と危機感を共有して下さり、本当にありがとうございました。授業を担当する者として、一層の工夫と改善を重ねる決意を固めた次第です。一つ、提案があります。本学の校訓は「恥を知れ」です。何が「恥ずかしい」と感じ、「恥」と思うかは、個々人によります。社会が多様化する中で、今後、学生と教員の価値観がズレる局面もあると思います。そこで「挑戦して思い通りの結果が出なかった」ことは、決して恥ずかしい事ではないと周知してみるのはいかがでしょうか？ 学ぶ意欲と何かを感じ取る感性は分野を問わず重要だと思います。長々失礼しました。
- ・高等教育機関をめぐる社会的状況や政策要請、本学でのこれまでの取組や今後の改善課題についてわかりやすくご説明いただき、ありがとうございました。
- ・大学の財務状況と首都圏女子大学の定員充足の比率、文科省の意向について、よくわかった。
- ・他学の定員充足率の低下状況が深刻であることが印象的だった。また定員未充足のペナルティーが大きいものであることを知ることができた。少子化の社会状況であっても、大学の質を高めることの重要性について理解できた。
- ・学生が1 度に多くの科目を取りすぎていることは従来から懸念していた。これは制度的には仕方のないことであり、クォーター制を導入することでその解決策の一つになりうるということが分かった。しかし、学生の集中力の問題もあるので、2 コマ続きよりは1 週間のうちの別日に1 コマずつ(火曜1 限と木曜1 限など、時限を同じくして分かりやすくするなどの工夫は必要)の方が良いのではないと思う。レイトスペシャライゼーションは、やりたいことが明確でないことが多い近年の学生にとってはいいことだと思う。例えば、学部内にある学科の壁を取り払い、学部が提供する学問分野を何でも学べるようにするのも良いかもしれない。1, 2 年次は幅広く学び、3 年次からコース制で学ぶ分野を絞っていく。ただ、結果的に学生が専攻する分野に偏りが生じると恐れ、それによって教育スタッフのワークロードに不均衡が生じるという、運営上の懸念もある。
- ・大妻女子大学の置かれた状況と知の総和答申について、市川学長の考え方が理解できました。とても有意義な講演であり、今後、各学部各学科・専攻が入学定員を満たすために各教員が共有すべき基礎的な内容であったと感じています。ひとつ、残念だったのは、日本社会における女子大学および大妻女子大学の必要性についての言及がなかったことです。日常業務を実施していると、教職員が女子大学の今後について不安を抱いていることがわかります。この不安を払拭する発言があれば良かったと感じました。例えば、日本社会が男女平等社会となっていない現状では、男子学生がいない環境によって性別による役割分担意識が薄れ、女子学生が自由に自己表現をしたり、リーダーシップを発揮したりする機会が増え、ジェンダー平等の実現に貢献できる女子大学が必要である、などの言及があっても良かったのではない

いか、と考えています。女子大学は、大学入学希望者の約半数しかいないマーケットで戦わなくてはなりません。入学希望者を集めるために大妻女子大学の必要性を受験生や保護者に訴えることが入試施策においても重要ではないか、と考えています。教職員のモチベーションを向上させる意味でも、ぜひ、学長もその先頭に立っていただきたい、と考えています。今後ともよろしくお願いします。

- ・レイトスペシャライゼーションのお話が印象的でした。比較文化学部も、広く色々なことを学んでからコースにわかれていく。そういった学部の特徴をうまく広報していくとともに、よりそれが分かりやすいカリキュラムや学科行事を検討していきたいと思いました。
- ・目の前の授業、学生にばかり気を取られ、大所高所から授業を見直す良い機会となりました。
- ・18歳人口減の大きな影響を受ける時期を眼前にし、女子大の生き残りが厳しいなかで、今すべきことのさまざまな可能性をうかがったように思います。
- ・大学における研究力の強化という話題がありましたが、その中に質の高い研究環境づくりのために「形式的な会議などの見直し」という記載がありました。講師の学長先生がこのようなポイントアウトして下さったことは大変意義深いと思いました。見直せるところは多分にあると思います。
大妻では検討していないとのことでしたが、クォータ制についてご説明があり新しい知見に繋がりました。また言及がありませんでしたが、授業時間を100分間にし、授業回数を14回にするという展望はないでしょうか。他大学ではそうしている大学があるそうですね。先日偶然エレベーターで居合わせた学生たちがこの件を話題にしており、その学生たちは100分間授業に前向きな姿勢のようでした。今年のように猛暑と夏の長期化は今後も続くと言われているので、前学期を1週繰り上げて終了するだけでも相当の光熱費削減に繋がるのではないかと思いますし、また学生の様々な夏季活動参加を可能にするといい、個人的には賛成です。
- ・昨今、様々にささやかれている少子化の現状や大学運営の厳しさについて、具体的な数字を根拠にわかりやすく解説いただけたのでとてもよかったです。またこれまでの文科省の方針との違いについても市川先生のほうで率直にコメントいただいたことで理解が追いつきました。ありがとうございました。認証評価制度の改正にともなう負担増についてはやや心配しております。過去10年において、書類仕事が増えたことで教育そのものにかかる時間が削られているのを実感しており、質の高い教育の実現をしなくても、なかなか厳しいのが現状です。重要度が低くなった書類仕事は学内で順次廃止するなど、整理が必要な段階なのではと考えておりました。他大学には見られない大妻ならではの良さを大切にしながら、学生たちにとって魅力的な大学・大学院で在り続けるための努力を続けたいと思います。本日はありがとうございました。
- ・新学長の所信表明というか経営課題認識表明という点で、とてもいいインプット・勉強になりました。
組織の長が示した方針をぐっと進める推進力をもつためには、理事長はともかく学長については選挙で選んでその際に所信表明をした方がよいのかなと感じました。
日本が直面している課題を全部本学で取り組んでいたのでは、対応や戦略ではなくて反応になってしまうので、示されている課題のうちいずれを選び取って行くのかという路線の共有は必要かと思いました。
それにあたってはやはりトップを選挙で選ぶことは必要だろうと思いました（国公立でしか選挙はやっていないのでやらない、組合がないのでやらないというなら、他のことについても国公立や組合を持つ機関と同様の対応を追い求めるのは筋違いかなと思います。ガバナンスが違うので。）。
- ・依然として、女子大は危機的状況にあることが改めて認識できた。そのような中生き残りをかけ、最善の授業を学生に提供し、補助金の獲得に協力したいと思う。
- ・大学を取り巻く状況の厳しさがよく理解できた。
- ・あと10年と思いながらも急速に進む18歳人口の減少を大変詳しく理解することができたと思います。わかりやすいお話をありがとうございました。
- ・通りいっぺんの解説ではなく、市川学長の視点でのお話に好感がもてました。学長の考えを示すことは重要だと思います。
- ・レイトスペシャライゼーションは教学だけでなく入試施策としても有効な方法だと感じました。
- ・同時履修授業数の絞り込みとして、クォーター性の導入が挙げられていたが、現在2コマ続きの実習系授業担当者より、2コマ続きの授業だと学生の集中力が続かなくなっているという話も聞いている。本学の学生にとっての適正も考慮しながら、導入を検討していく必要があるように思う。今回の講話を聴いて、改めて、本学では必要とされている取り組みを実践してきているからこそ、入学定員の充足要件を満たしているのだということがわかった。今後、ますます大学への進学者数が減少していくことから、答申に示されていること以外の新しい視点での取り組みも行っていくことで、他の大学との差別化を図り学生を確保することにつながるのではないかと感じた。
- ・答申においてオンライン授業の推進が挙げられていましたが、ここ数年の本学の取り組みはこの流れに逆行していると思います。都心の大学では朝のラッシュ時の通学は学生にとって大きな負担となっていると思います。学生ファーストの立場から学生の満足度向上のためにも、20%程度のオンライン授業を推進するべきだと思います。
- ・市川先生のお考えを知ることができ、大変勉強になりました。どうもありがとうございました。
- ・新しく学長になられた先生の誠実なお人柄の伝わるご講演でした。答申の内容を詳細に知ることができました。クォーター制やレイトスペシャライゼーションは制度（働き方）的にも大きな改革になりますので、メリットだけでなくデメリットも、もっと具体的に知りたいと思いました。なお、配信で拝聴できるのはありがたいことですが、YouTubeでしばしば広告が入るのは集中をそがれます。

- ・文科省の答申を受けて、本学でどのような対策を取っていくのか、という視点がほぼなかったのが残念だと思いました。このような場では、文科省の答申の紹介よりも、将来構想に関するビジョン共有に力を入れるべきだと思います。
- ・今回の講演会で、国や本学を取り巻く状況を丁寧に説明いただき、いろいろな視点、気づきを得られる機会となりました。ご講演いただきありがとうございました。
- ・女子大を巡る状況の厳しさのみならず、急速に進む少子化問題についても良く理解できた。こうしたなかで、どう工夫して魅力ある大学にしていけるのか考えさせられた。近年の傾向として、女子大が人気がないというよりも、学ぶ内容によって大学を選ぶ傾向が強いらしいので、より各学部の魅力を「見える化」していく努力が大事であると実感した。
- ・海外から留学生の積極的な誘致、社会人教育の幅広い参与、特に社会人教育における遠隔通信・オンラインの展開を是非実施していただきたい。しかも「営利」目的を明確にして、展開していただきたい。
- ・大学の現状、問題点について整理してお話ししてくださりよく理解できました。具体的な対策を考えなければならないと痛感しました。
- ・非常勤講師のため、大学の経営や方針について知る機会がないので、興味深かったです。シラバスの書き方やアクティブラーニングの取り組みなどがなぜ変わったのか、理解できました。今後の授業の参考にさせていただきます。
- ・これまでわかっているようで、わからなかった施策などを上手くまとめて頂きました。本学の位置づけがわかり、今後の歩むべき方向性などが見えた気が致します。
- ・中央教育審議会「知の総和」答申の概要を知ることができ、今後の大学における教育・研究のあるべき姿を考えるよい機会となりました。今回のお話は多岐にわたっていたので、今後、さらに具体的なテーマに絞って学ぶ機会があると幸いです。
- ・本学の位置づけ
- ・学長の講演にもあったとおり、教育の「質」「規模」「アクセス」の間には、トレードオフが存在し、すべてを最大化することはできないと考えます。本学として、どのような大学を目指し、各項目の間でどのようにバランスを取り、他の大学との差別化を図るのかという点において明確なビジョンをもつことが重要だと思われます。過去 8 年間を振り返ると、カリキュラムツリーづくりや 3 ポリシー見直し、DS 学部設置後の教室不足問題への対応など、全学的な方針が示されないまま、半ば場当たりに学部学科に作業指示が降りてきた印象があります。あらたな体制のもとでは、各学部学科が目指すべき大学像を共有したうえで個別の課題に対応できるよう、大きなビジョンや方向性をわかりやすくお示しただけですと大変ありがたいです。
- ・定員充足率や大学を取り巻く状況はある程度理解できた。一方で多様化を進める将来の大学像という部分について特にイメージはできなかった。
- ・ご講演ありがとうございます。専門養成課程の非常勤（実務者）です。「学修者本位」の教育について専任教員とのディスカッションもしてみたいと感じました。
- ・日本の雇用形態がジョブ型に移行する中で、学生が主体的・自律的に学習するための環境構築は、たいへん重要であると感じました。特に女性は家庭環境や状況により離職しなければならないこともあるかと思いますが、そうした時にいつでも職場復帰できるよう、自らスキルアップに取り組む姿勢が重要であると思います。社会のニーズを分析し、それに合った教育の提供がこれからますます必要になると感じました。
- ・大学教育の現状と、今後の課題がとてもよくわかりました。お話にあった中で、他大学において①クォータ制、②通信教育（オンライン・オンデマンド授業）の経験がありますが、それぞれメリット・デメリットがあります。これらについては未検討（または一部実施？）とのことですが、今後の方向が気になります。
- ・授業期間の実施であり、今回もリアルタイムの参加が難しかった。教授会終了後の時間など、多くの教職員が参加できる時間帯での実施を希望します。内容については参考になることも多かった。いろいろな考え方を知ると、学科や学部問わず、全学的に進めていこうとすると難しいこともあるように思いました。免許や資格を出す学部はどうしても、専門科目を 1 年次から行わなければならない傾向があり、教養科目をじっくり学ぶというところとのせめぎあいがあるように思います。それでも、学生たちが卒業時に満足して卒業していけるような幅広い学びを保障していくことはとても重要だと思います。学長が言われているように、すでに多くの資源がある大学だと思っていますので、他の大学に学ぶことも多いですが、いまある資源を有効に機能させ、実質的な効果を図る必要を感じました。
- ・急速な少子化の中、最後のスライドにあった大学規模の縮小は迅速、且つ計画的に考えていくべきだと思います。また、広報活動の充実に関しても、重要だと思います。在学生に聞いてみると、大学に入った後に食物学科の良さを感じることがあり、入学前の高校生にも、もっと伝えるべきと言ってくれます。広報活動に関しては、最重要事項として学院全体で取り組むべきだと思います。
- ・今回の講演を通じて、大学院の学修者数が減少していく中で、質の高い教育をどう維持、向上させるかという課題を改めて意識しました。「同時履修科目の絞り込み」や「レイトスペシャライゼーション」の促進は、学びの進め方を見直す試みとして印象に残りました。かつての一般教養とは異なる視点からの制度設計であり、今後の動向に注目したいと思います。
- ・政府の考え方、大学の考え方、現場の立場、学生の求める大学の姿が合致していい方向に進めたらいいなと思いつつ、難しいだろうなと思いました。また学生の主体性を向上させるのが目的でありながら、管理することも求められていてそれをうまくまとめるのは難しいなど、課題がたくさんあることを実感しました。（個人的な感想ですが、..）話題となっていた「レイトスペシャライゼーション」はコミュニケーション文化学科ですでに実施されその結果が出ていることであると感じ、今日のお話を伺えて、未来を見据えたときに安心できる点だなと思いました。

- ・少子化による今後の大学運営に関して改めて考えることができた。研究の質の向上は目指すけれど、定員充足を目指すということが非常に難しいと感じた。年々学生の学力の差も感じるようになり、「研究」という視点で捉えられる学生とそうではない学生に二分しているように感じる。レイトスペシャライゼーションは魅力は大きい資格取得などがあると単位数の関係で難しい場合もあるだろう。成績優秀者の表彰よりも、学費免除などのほうが良いという学生からの声もあるので、学費免除なども考えていっていただきたい。また募集広報などは教員が行う部分が所属によっても偏りがあると思う。研究者としての役割もあるので、研究時間の確保などもできるように役割や所属の偏りがないようにしてもらいたい。
- ・国からの補助金についての具体的な説明（大妻の立ち位置）をいただきましてありがとうございました
- ・学生たちのキャリア意識に関するお話があったのが、日頃の授業内容と結びついて「価値ある授業」を実践できていると感じました。
- ・今後の18歳人口推移から予測される大学をとりまく社会の変化と影響について、また、中央教育審議会の答申の内容についてわかりやすく解説して頂き、現状と今後の課題について知ることが出来ました。
- ・社会情報学部では、多摩から千代田に移ったことで、定員割れの危機感が薄れてしまっているように感じられる。カリキュラム改革をしても効果が出ないとか、失敗するリスクを恐れて、何もやらないうちに改革のタイミングを失ってしまうことを恐れます。本日の講演で、ハッキリとダウンサイジングに向けた準備が語られる一方で、補助金獲得に向けた高い目標を設定したことは、学長の決意が伝わって大変よかったと思います。クォーター制は、教員の研究時間確保のためにも有効化と思います。
- ・大変充実した内容で勉強になりました。ありがとうございました。
- ・今回の全学FD講演会を通じ、本学を取り巻く環境と課題について、あらためて認識をいたしました。その中でも、学生ファーストの教育の提供、社会のニーズに合った教育の提供の重要性をあらためて認識しました。今後の教育活動に励みたく思います。
- ・全体の動向については、ある程度承知していましたが、改めて情報を得ることができて有り難かったです。ただ、大妻女子大学全体としての今後の方向性についても、何かご示唆いただけると、全員の課題意識が明確になったのではと思うところもあります。
- ・大学の定員割れには、厳しいペナリティーがあり、定員充足率に応じて補助金の減額や修学支援制度機関からの除外などがあることが分かりました。また、特に女子大が、首都圏の女子大であっても、11位以下では定員割れを起こしている状況であることも知ることができました。そのような厳しい状況の中でも、大妻女子大は、定員を満たし、補助金も交付され、多分野にわたる学部を有して、経営上も安定していることが分かりましたところも、今回の講演会の録画を視聴して良かったと思いました。
- ・大学をめぐる状況について、女子大の視点から具体的に理解することができ、参考になりました。
- ・初等中等教育における、通学困難な児童・生徒さん達に対応する通信教育の拡充を、高等教育に対しても要求している現実が明らかになった感があります。言っても仕方ないことですが、今までの高等教育機関認可拡充の責任を、ある意味、現状の高等教育機関に担わせていくような政策にも違和感を覚えています。とはいえ、本学の教育・研究の質と量の維持を進めるには、質と量のトレードオフ関係があるにしろ、全体的な底上げしか方策が無いとも考えます。どのように効率よく進めるかは、戦略的なアプローチが必須と考えますが、高等教育界における本学の位置が明確になったことと、底上げに必要な目標が定められたことでは、とても有意義な講演会でした。私に関与している日本図書館協会の改革においては、本学の今後のアプローチよりさらに困難な道がありますが、その経験も糧に、貢献できるように努力いたします。ご講演、本当にありがとうございました。
- ・国の方針についてきちんと理解はしておらず、他の誰かが話している断片的な情報をなんとなく摂取しているような状況でしたが、今回のように全体をかみ砕いて説明して下さったことで、その内容がわかり、良かったです。
- ・大学が現在置かれている状況について数字やグラフも交え具体的に説明していただき、良かった。わかりやすかった。改めて現状を認識することができた。女子大学なので、女性のスタッフも参加するともっと良かったのではないだろうか。
- ・社会における大学の現状、本学のポジション、目指すべき所がよく理解できました。体験を含めた授業内容を実施しているつもりですが、さらに、主体的・自立的な学修に繋がる授業や内容になるよう工夫を凝らしていきたいと思いました。対面で参加出来なかったのが残念でした。このような場を設けて、教員の認識をより高めていくことの重要性を一層感じました。
- ・大学に対して、ここまで文科省の支配が進んでいるとは知らなかった。実際、今日市川学長のお話を聞いて意義深かった。大学の独立性などもはや存在しないのか、と愕然としてしまった。「質」という曖昧な名称で大学の存在意義を文科省に測られてしまうというのは、統制教育としかいいようがない。もちろん、文科省の圧力に抗しながら、大学の独立性は守らねばならないと考えるが、具体的な案がすぐに浮かぶわけではない。ただ、女子大学であることを維持する方針であるならば、なぜ入学者を女子に限定するのか、女子とはトランスジェンダーも含むのか、含む場合はどういう問題が起こるかを前もって対策せねばならない。入学後に2年教養課程があつて、2年を終えて専攻を決めるという東大式の体制は学生にとって親切だと思われる。たいした目的を持たず入学するケースは少なくないからである。ただ、教養課程が2年もあるのは長すぎるのではないかという危惧や、一部の専攻に人気が集まった場合、選抜試験などを行うことになると、そこで落第した学生のモチベーションをいかに維持するかなどの問題が発生するように思う。
- ・学修者本位の教育の推進という点において、所属する短大教育の在り方（カリキュラム編成）を見直し、改善している

ところ。社会的な動向として短大の存在価値が問われている現状を鑑みると学内のみで解決できる課題は限定的であり、むしろ短大の存在価値を社会で見直すための方策が必要かと思います。一方で、短大は社会的に一定数のニーズがあることも実感しており、これまでの本学の短大運営の在り方を見直し、できるだけコンパクトな人的配置で効率的な運営ができるような経営戦略を考えていく必要性を感じているところです。学短が協働できる場所は協働し合理的な運営を行いつつ大妻学院としての将来を構想していくことが重要ではないかと考えます。

- ・女子大学としての厳しさ、現状がよく分かった。その中で、児童学科が小学校・中学校の理科免許を取れるコースをつくったことは、先見の明があったと思われます。学生や社会のニーズに合った教育を、これからも目指していこうと思いました。
- ・今後の組織改変について私見を述べたいと思います。全学的には定員を充足しているとはいえ、本学の経営状況と今後の少子化を考えると経営は一層厳しくなっていくと考えられます。中央教育審議会の答申には「規模の適正化」がありましたが、単なる縮小では負のスパイラルに入ってしまう可能性があります。一方で、本学の教育体制にはいくつか重複傾向の領域があります。例えば家政学部食物学科、ライフデザイン学科の自然科学系、及び社会情報学部環境情報学専攻の自然科学系は「食・健康・環境」をキーワードとしていながら複数の学部に分かれています。これを「食環境科学部（仮称）」のような形に改変することでスリム化が図れると思います。また、家政学部ライフデザイン学科の建築系と社会情報学部環境情報学専攻の建築系は「建築インテリアデザイン学部（仮称）」のような形に再編することが可能ではないかと思っています。本学には純粋な理科系の学部がなく、理科系の女子高校生の進学先候補としてそもそも本学が選択肢に入っていない可能性があります。「食環境科学部」や「建築インテリアデザイン学部」の創設は、従来本学を進学先候補として考えていなかった理科系の女子高校生の興味関心を惹く強力な学部となると思います。ただし、組織名称だけ変更してもあまり意味はなく、理科系学部を創設するなら実験室、培養室、分析室、製図室、分析機器、顕微鏡、製図用具などは勿論、それらを使いこなす教員も揃える必要があるため設備投資が必要になります。予算の確保のためには食や環境（グリーン）分野における文科省の大学・高専機能強化支援事業の利用は重要だと思います。また、収入アップのためには寄付金をより多く集めることや、大学施設を学外の学会等に貸し出して賃貸料を得ることに積極的に取り組む必要があります。生涯教育の重要性から社会人のリカレント教育を充実させることも、教育的だけでなく経営的にも有効だと思います。上記の再編学部では栄養士・管理栄養士、中高教員免許（理科）、二級建築士受験資格などの資格取得をPRし、資格・就職に強い大妻女子大学をアピールすることも重要でしょう。将来的には、資格に強いという意味で看護系や薬学系の学部もあると良いと思いますが、これらは母体となりうる学部学科が本学にはありません。看護系や薬学系の単科大学との合併も検討の可能性はあるのではないかと考えています。
- ・中央教育審議会の答申について今回の講演で知り、文科省のページから資料やビデオを見て確認しました。国としては今後、いろいろな改革を進める上での指針となるようですが、本学との関連性を講演でご説明いただき、最後には本学の課題と絡めた直近の方針も示されていたので、よかったと思います。一方で、本題の「知の総和」に対する本学の役割についても課題として挙げていただくとよかったかなと思いました。
- ・大学の普遍的な使命は、社会の変化に対応できる有為な人材の育成に他なりません。人それぞれが持つ知識やスキルの質を高めながら、より多くの人が学びや成長にアクセスできる環境を作ることで、社会全体の活力を引き出せると確信します。「知の総和」に向けて、大学は学生一人ひとりの資質や能力を最大限に高め、教育研究の質を向上させる必要があります。本講演を通して、とくに教育研究（文理横断・融合教育、デジタル、国際競争）及び学生へ支援（学生の多様性・流動性の向上）の観点に注目しました。学びの質を高めるための教育内容・方法としては、学生が主体的・自律的に学修するための環境構築が重要であり、地理的・社会経済的な観点からのアクセス確保によって高等教育の機会均等の実現を図ること、具体的にはオンライン教育の推進が挙げられます。また加速するグローバル化と国際競争力を背景に、ダイバーシティ&インクルージョンの推進も欠かせません。ヒューマンキャピタルが多様であれば、企業はより創造的で生産的になるように、大学においても然りです。留学生や社会人など多様な属性を持つ学生の確保は、キャンパス内に新たな価値観やイノベーションをもたらす、大学のパフォーマンス向上につながると思われます。
- ・大学という機関が置かれた状況が理解できた。
- ・少子社会、学生数の減少に向けて、国および大学の基本的な方針や考え方を理解することができた。高等教育を取り巻く厳しい環境をふまえ、一非常勤講師としての立場ではあるものの、授業改善や学生の質の向上のための努力を続けていきたいと思いました。貴重なお話を有り難うございました。
- ・少子化により入学者の減少が本格化するであろうことはわかっていますが、国の補助金に対する規定が非常に細かくて厳格であることを今回初めて知りました。学生ファーストとおっしゃっていましたが、学生に対しては、大人として接するというよりは、優しく、とにかく優しく、学生を指導することが求められているのかなと思いました。
- ・大学がおかれている経営環境について、学長からわかりやすくご説明があり、現在の女子大における本学のポジションについて確認ができました。自分の立場、役割において何をすべきかを考え、本日の課題に資するように今後の教育活動・校務に取り組みたいと思います。また、研究活動の一般の方々への発信も大学の広報活動において、重要であると再認識できました。できるところから、学内の教職員の皆様と協力しながら取り組みたいと思います。長い時間のご講演をありがとうございました。
- ・18歳人口の急激な減少について、データに基づいてのご講演、大変興味深く拝聴しました。切実に考えるべきテーマだと感じました。
- ・OCの展開、広報用の模擬授業などで、各学部・学科の特色をより活かした形の内容にし、大学の魅力を上げる事などきめ細やかな自由度の広さが、学修予定者への大きな魅力となるように感じます。また、レイト・スペシャライゼーシ

ョンと資格認定カリキュラムにおいては、その整合性を十分に吟味しながら、柔軟な対応が求められるように思います。これらの組織的な柔軟性が有機的に作用することによって、学修予定者の興味関心を引く良い風が吹くように感じました。論理的な話でいうと、一般システム理論の応用により、大学の組織体と入学志願者へのシンクロ・同位体としての波及により、厳しい状況下での生き残りに対して、ポジティブに弾力的に立ち向かえる効果が見込める事がその根拠です。そういった心構えで、今後もFD活動、多摩キャンパスの活性化を下支えしていきたいと思います。ご講演、ありがとうございました。

- ・「知の総和」向上に関する政策目的と重視すべき観点について整理できた点が良かった。
- ・答申の内容について、学長のお立場からのお考えを知る機会となり有意義でした。「知の総和」という切り口で、高等教育機関の整理統合が進められる状況について理解が深まり、取り組むべき課題もみえたように思いました。
- ・データと事例を根拠にとってもわかりやすい講演会でした。
- ・教育研究の質の更なる高度化が求められていることが理解でき、教員としての責任を再認識した。
- ・学長先生自らが求められていることと貴学の状況とを合わせてご説明された点が非常に興味深く、理解が深まりました。
- ・特に最近の大学事情や高等教育が目指すべき姿について、改めて考えさせられる機会になった。多様な学生が入学してくる中で、その学生が社会人になることを踏まえてどんな教育が求められるのか、また教員としてもどんな教育をしていきたいのかということを考えていくことが必要な時期であるように感じている。今後の教育活動や研究活動について再度見直しをしていきたい。
- ・高等教育への「アクセス」確保の中で地域にとって真に必要な一定の質が担保された教育機関への支援というのは、非常に重要な視点に思えた。東京にあると地域性を意識しづらいが、少子高齢化がさらに進むと「身近さ」が物事を決める大きな要因になると思われる。それは教育にも当てはまるのではないだろうか。
- ・少子化の問題により、毎年90校消滅していることには驚きました。「知の総和」の向上が大事というのも、今回、話を聞き、関心致しました。
- ・現在日本が経験している劇的な人口構造の変化を考慮すると、大学への広範な影響を考察することは極めて重要である。そこには危険性と同様に機会も存在することが明らかとなった。教育者は多様な観点からこれらの問題を把握し、今後の政策を検討する必要がある。今回の講演は、関連する多くの重要な課題を提示する点で、非常に有意義なものであった。
- ・女子大が厳しい状況であるという話がここ数年でいくつかの報道機関から流れてきて、不安に感じていました。具体的なお話を伺うことが出来て良かったです。
- ・講演のなかでもあった入学者・在学生の量だけではなく、入学者・在学生の質（の確保）という言葉が印象的でした。年々学力の低下がみられるなかで教育の質の向上という点でも、授業コマ数の見直し等も含めた、教員の研究時間の確保がなにより必要不可欠だと思いました。
- ・学院の経営収支が赤字であることについて、その詳細を知りたい。伊藤学長の時代に赤字になってしまったことの原因を、より詳細に知りたい。
- ・答申の概要説明をいただき、参考になった。
- ・大変丁寧でわかりやすく説明していただき、本学のおかれている現状と今後の展望がよく理解できました。ともすれば定員未充足をつぶそうとする動きのなか、定員を充足していくためにより努力していかなければならないと感じた（大学内、学部内の温度差はあるが）。レイトスペシャライゼーションのお話も興味深かった。現状の学生の育成だけでなく、大人の学び直し（リスキリング）についても検討いただけたといいのではと思う。
- ・学生の自律的な学習環境の構築について、大学図書館の活用が不足しているように感じています。授業やゼミで活用を推進していますが、全学的に取り組みを広げても良いように思います。
- ・学長より、中央教育審議会の答申の概要について分かりやすい説明がございましたので大卒、理解することができました。少子化による18歳人口の減少に起因する私立大学が課せられている課題は多いことが分かりました。また、大妻女子大学のこれまでの取り組みと今後の方向性、具体的な対策と6つの検討課題についても理解することができました。
- ・高等教育の少子化への対応が10年しか猶予のない中、より学生にとって満足のいく授業の必要性を改めて認識しました。1つの授業での受講者の減少も見込める中、より学生に評価され、かつ社会のニーズに応える授業とは何かを模索する必要性も認識しました。学生の学修時間確保のために、授業内容と社会とのつながりを自分から調べるように呼びかけましたが、それをもっと実効性のある取り組みにしたいと考えております。
- ・今後の大学運営や経営に関して示唆に富む内容で満足しています。
- ・文科省の答申の必要な部分を要約して、わかりやすく示していただいたこと、本学の実施済みとこれから取り組まないといけないことの明確化、女子大の中での本学のポジショニング、他大学の改革内容なども俯瞰して見られたので良かったです。ありがとうございました。
- ・さまざまな視点（学生数、コストなど）から現状と課題を知ることができました。レイトスペシャライゼーションの是非、メリットやデメリットなどについてさらに深く、意見交換する場があればいいと感じました。
- ・レイトスペシャライゼーションについて、初めて知りました。入学後に一定期間将来について考える時間ができ、とてもよい仕組みだとおもいました。オープンキャンパスでいかにして、学部学科の魅力を伝えるか改めて大切であると思いました。長時間にわたるご講演ありがとうございました。

- ・私大特に女子大を取り巻く環境や、厳しい環境の中での本学の取り組みについて理解を深めることができました。今後高等教育に期待されることや支援のあり方・方向性について大きな示唆が得られ、これからの教育活動に従事する際に活かしていきたいと思います。
- ・現状を把握するとともに、知の総和について理解を深めることができました。ありがとうございました。今後の課題として挙げられていましたクォータ制度について意見を述べさせていただきます。クォータ制は、数年前に多く導入されたと認識しておりますが、セメスタ制に戻した大学が多いため導入率が低いと思われます。前任校においても、クォータ制が導入されましたが、数年でセメスタ制に戻しました。資格取得学科でも時間割作成は可能でしたが、2コマ続き、または週に2回の時間割になることによって、科目によっては効果がありましたが、課題が集中することによる学生の疲弊や集中力の低下が見受けられました。また教員の授業準備の負担も増大しました。以上のことから、クォータ制度の導入には反対いたします。
- ・本学をどのようにしていくのか基本的な考えを聞くことができてよかったです。補助金のしくみなども有意義でした。
- ・日々の授業をどのように変えていくかというよりも、中長期的な視点での大学（・学部・学科）運営をどのように考えるのかについてのご講演だったように思う。やるべきことは明確であるわけで、引き続き、学科の魅力や個性を強調し発信していくことに力を入れたい。
- ・今回は大学の経営に関するお話が多かったので、授業に関して参考となる情報がそれほどあったわけではありませんが、今後の大学教育の役割やあり方などを考えるよい機会になりました。
- ・女子大学が置かれる厳しい状況が、他大学との比較だけでなく文部科学省との関係でも理解できました。同程度の定員充足率の大学でも共学化を決めているところに、各大学の切迫感が伝わってきます。また大学での学びやすさの確保が重要だと感じました。自治体などと連携しながら、電車が遅延した場合の情報共有や代わりになる交通手段の確保は、学生の学びという観点でも重要だと感じます。
- ・本務校の期末試験の関係で当日参加ができなかったのが、とても残念である。このような大学教員の意識を高めるを通して、今後も知見を深めていきたい。
- ・少子化により、大学が大変厳しい状況にあることを再認識致しました。データサイエンス学部や人間共生学部等、社会のニーズに対応した学部の新設や学修体系の改善等により、大妻女子大学がより社会に必要とされる教育機関となるべく取り組まれていることに、改めて共感致しました。
- ・答申の内容がよく分かった。
- ・知の総和＝人数×能力 という数式には、笑ってしまった。能力は、どのように計量化するのか。そもそも、知は、数量化可能な概念なのか。総人口に対する進学率の割合が、年々増大する以上、その全体的能力が低下するのは、必然ではないか。知の向上を掲げるのは結構だが、それは、統計的に矛盾する目標ではないか。
- ・特に印象に残ったのは、「少子化により毎年大学90校が消滅」のスライドでした。大学の存在の意義を伝える重要性を改めて感じました。
- ・女子の高等教育の意義、私立大学の建学の精神の時代に合わせた解釈など、考えなければいけないことは多々あると感じた。
- ・変革することが必要であることがよくわかりました。補助金獲得には、大学の運営への協力が必要であることも理解しました。
- ・学生ファーストの教育は言うまでもなく、レイトスペシャライゼーションの促進及びそのための定員管理制度の弾力化について、今後の課題であると理解しました。
- ・とても参考になりました
- ・冒頭では首都圏における主要な女子大の定員充足率等の概要を知ることができ、有意義でした。ありがとうございました。
- ・「知の総和」答申について全体像を把握することができ、大変勉強になりました。答申の内容について「数×能力」という視点が出てきましたが、その具体的な内容の検討が重要であるように感じました。「数」を確保する上では、入学者数に直結する18歳以下の学生はもちろんのこと、大学教育に対する関心が薄い層を含めた地域の人々に対しても、大学での学び＝得られる「能力」がどのようなものであるか継続して発信し、大学の存在意義を示し続けることが重要かと思います。
- ・入試倍率も含めて厳しい経営環境であることが分かりました。
- ・大妻を取り巻く現場や、大学に求められている運営方針などを知ることができ良かったです。ありがとうございました。
- ・本学も含め大学の置かれている現状についてとその対策について、知の総和答申の内容をご説明いただいた上で本学の今後の取り組みや方向性のお話をいただき、自身もしっかりとその施策に貢献できるように日々過ごしていかなければならないと感じました。自身は授業の準備、学生への対応、その中での研究活動など日々の業務に追われていますが、その積み重ねが本学の発展の推進となるように、全体のこと意識しながら過ごしていきたいと思います。わかりやすいご説明をありがとうございました。
- ・教育系の研究もしているのである程度は知った内容でしたが、本学の事情に合わせた解釈の助けになりました。一般的な内容よりも本学に特化した内容になればなるほどFD講演会としての価値が上がりそうに感じました。
- ・18歳人口の減少についての具体的な数値や、教学マネジメントの点数や目標値などを再確認できたことが良かったと感じた。また、安易な公立化や規模の適正化ではなく、独自の教育方針や大学運営を行っていくことの大切さがうかがえて良かった。

- ・私学での勤務は初年度であるため、現状ならびにこれからの方針について詳細に知ることができ、今後、どのように学内教育を充実させていくのか、また興味関心を持ってもらい入学してもらえるのかを検討していきたいと感じました。
- ・文科省の高等教育に関する改革方針を丁寧に解説してくださり、内容を知る良い機会となった。研究の質を改善するために、形式的な会議の削減に言及されていたが是非進めていただきたい。文科省が補助金を使ってチェックリストの対応を要請しているわけであるが、形式的な対応に終わらないように、社会や学生の要望を踏まえた検討実施が必要と思った。
- ・現在、大学が直面する問題についてわかりやすく説明していただき、大学改革について待ったなしの状況について自覚を持つ機会となりました。ありがとうございました。
- ・私学、特に本学の置かれた状況と課題、文部科学省の方針について、具体的に知ることができました。
- ・我が校が置かれている危機的状況について、理解してはいたが、あらためて具体的な情報をインプットいただいたことでしっかりと認識することができました。また、これから何を取り組んでいくのか具体的な方針を示していただいたおかげで、自らも具体的な行動に移せると感じております。
- ・18歳人口が減少し学部定員を減らさざるを得なくなる時代、大学院の充実が急務と考えます。学部からの進学率を上げることによって大学の収容人員の確保ができます。また、リカレント教育として社会人の再教育もできる研究科であれば、教育の質向上にもつながります。データサイエンス学部は、どの学部を卒業しても社会で役に立つ実学なので、上記の要件を満たす大学院かと考えます。
- ・「知の総和」について具体的にご説明をいただいた点が良かった。具体的に、人口減少と結び付けて今後、大学が進むべき方向を文科省として示していることと それに加えて本学が何をしようとしているのか、どうするのが具体的に理解できた。
- ・授業内容・方法を改善し向上させるための勉強になりました。
- ・答申の内容を紹介しつつ、学長先生のご見解についてもうかがうことができ、本学の今後の方向性について示唆があったように思いました。クォーター制の導入など、具体的な課題についてもご教示があり、考えることの多いご講演だったと受けとめます。
- ・日本における少子化の進行が大学に与える影響の予測と、それに対する政府の対応方針をふまえて、大妻女子大学としての対応の方向性を説明して頂き、概略を知ることができた。
- ・講演会「知の総和」を通じて特に印象に残ったのは、多様な背景を持つ学生たちの受け入れが、単なる国際化ではなく、知の多様性を高めることにもつながるという点です。外国人留学生の受け入れは、大学の定員確保という現実的な課題の解決にも貢献しますが、それ以上に、異なる視点が交わることで学びの質が深まるという意義があると思います。
- ・大学の学生募集定員が、高校卒業次生の大学進学希望者数を上回る時代が到来しました。一層魅力ある教育や研究を実践し、広く支持が得られるよう邁進しなければならないと改めて感じました。
- ・同一科目2時限続きは、かなり難しい学生がいるように思います。
- ・文科省などの外部の公開情報をベースにお話をされていたので、事前にそれらの公開情報を周知し、それに対する質問をあらかじめ集約し、それにたいして講師がコメントする、という形式にすればより講師のオリジナリティが発揮できると思います。
- ・大変な時期に学長となられ、ご苦勞絶えないことと思います。お身体に気を付けながらも、本学を良い方向へ導いてくださるよう、よろしく願いいたします。
- ・学長ご就任矢先のFD講演会ありがとうございました。ボリュームのある冊子を要約くださり、内容が少し理解できたと感じています。私は、学生募集広報に教員ももっと高校に出向いて汗をかく方が良いと考えています。大妻は良い大学なのに、その中身が広く知られていない気がします。
- ・本学をめぐる現状が大変よく分かりました。参考になりました。
- ・いつもお世話になっております。なかなか詳しくは計り知れない部分の詳細を理解することができました。よい学びの機会となり感謝しております。今後ともよろしくお願いいたします。
- ・当日参加はできませんでしたが、動画で受講することができてたいへんありがたく存じます。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

以 上

(2) FD 講演会:生成 AI を授業にどう活かすか

講師:短期大学部 教授 豊田 雄彦 先生

データサイエンス学部 教授 広瀬 啓雄 先生

日時:令和7年12月18日(木)16:30~18:00 Zoomによるオンライン開催

The poster features a dark blue background with a light blue abstract shape on the left containing the main title and description. On the right, there is a photograph of a laptop screen displaying a presentation slide titled 'AI'S BENEFITS' with bullet points: 'Efficient', 'Personalized', 'Engaging', 'Interactive', 'Collaborative', 'Adaptive', 'Scalable', 'Accessible', 'Transparent', 'Secure', 'Ethical', 'Responsible', 'Accountable', 'Inclusive', 'Diverse', 'Equitable', 'Sustainable', 'Innovative', 'Creative', 'Imaginative', 'Inspiring', 'Motivating', 'Empowering', 'Enriching', 'Elevating', 'Evolving', 'Expanding', 'Exploring', 'Experimenting', 'Engaging', 'Empowering', 'Enriching', 'Elevating', 'Evolving', 'Expanding', 'Exploring', 'Experimenting'. Below the main title, a paragraph describes the lecture's focus on the rapid evolution of generative AI in university education, covering its nature, quality improvement, specific applications (report topics, AI vs non-AI learning effects), AI usage in education (material development, learning support, student AI usage), and AI usage for knowledge expansion and deepening.

令和7年度後期 全学FD講演会

生成AIを授業に どう活かすか

昨今の生成AIの急速な進化は大学教育にも大きな変革をもたらそうとしています。本講演では、その本質から、教育の質向上に向けた具体的な活用までを深く掘り下げます。大学教育での成功事例（レポート課題、AI支援と非AI支援の学習効果の比較等）、教育への生成AI活用（教材開発、学習支援、学生のAI活用等）、AIが知を広げ深める使い方等について考えていきます。

12/18
木曜日
16:30~18:00
Zoom開催

<講師>
豊田 雄彦 先生
(短期大学部 教授)
広瀬 啓雄 先生
(データサイエンス学部 教授)

<主催>
大妻女子大学
ファカルティ・ディベロップメント委員会

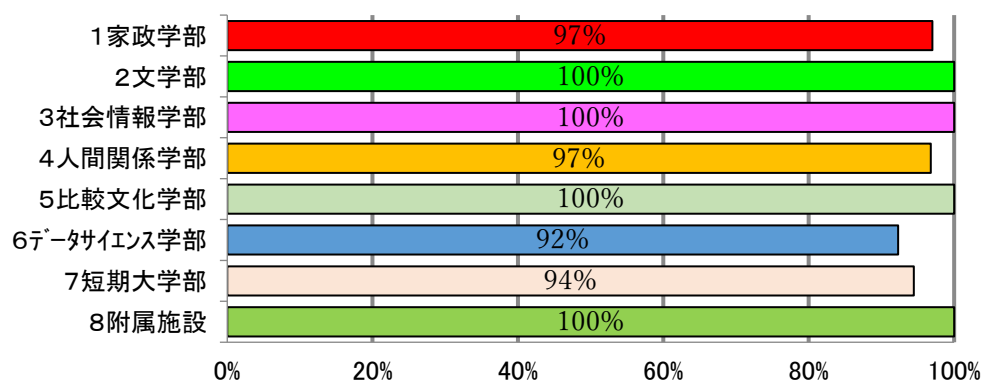
FD 講演会アンケート集計結果

- < テー マ > 生成 AI を授業にどう活かすか
 < 講 師 > 短期大学部 教授 豊田雄彦先生、データサイエンス学部 教授 広瀬啓雄先生
 < 開催方法 > Zoom によるオンライン開催 + 録画配信
 < 開催日時 > 令和 7 年 12 月 18 日 (木) 16:30~18:00
 < 録画配信 > 令和 7 年 12 月 23 日 (火) ~ 公開中
 < 回答期間 > ①令和 7 年 12 月 18 日 (木) ~ 令和 8 年 1 月 30 日 (金) 23:59
 ②令和 8 年 2 月 2 日 (月) ~ 2 月 13 日 (金) 23:59 (専任教員未回答者対象)
 ③令和 8 年 2 月 14 日 (土) ~ 2 月 19 日 (木) 23:59 (専任教員未回答者対象)
 < 未回答者 > 5 人
 (研 修 等 除 く)

【参加者(アンケート回答者)の所属】

所属	出席者			所属教員数
	Zoom	録画	合計	専任教員数
1 家政学部	23 人	42 人	65 人	67 人
2 文学部	8 人	31 人	39 人	39 人
3 社会情報学部	11 人	21 人	32 人	32 人
4 人間関係学部	9 人	21 人	30 人	31 人
5 比較文化学部	7 人	13 人	20 人	20 人
6 データサイエンス学部	6 人	6 人	12 人	13 人
7 短期大学部	11 人	6 人	17 人	18 人
8 附属施設	4 人	13 人	17 人	17 人
9 非常勤講師	26 人	0 人	26 人	
10 助手	0 人	15 人	15 人	
11 事務職員	1 人	0 人	1 人	
合 計	106 人	168 人	274 人	

【所属別参加率】(専任教員)

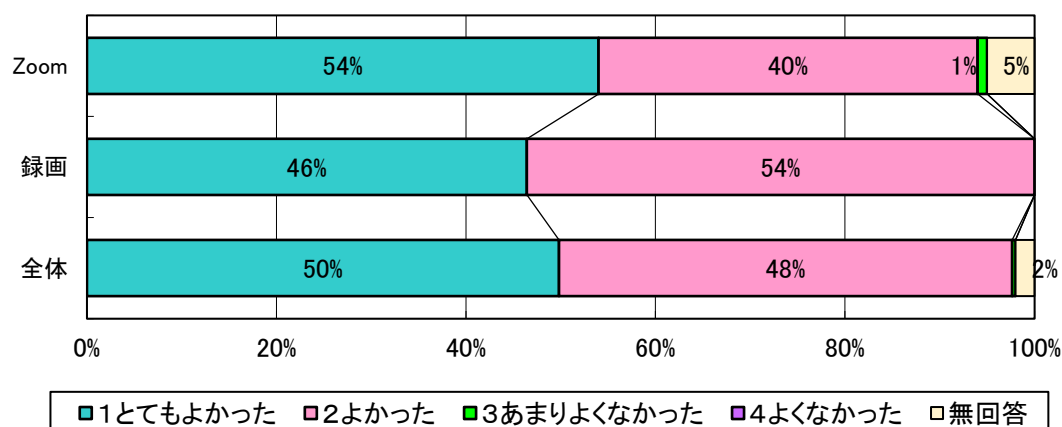


以下、提出されたアンケートの集計結果（アンケート回収総数 274 人分を対象）

問 1 講演会の内容、運営などについて当てはまるものを選択してください。

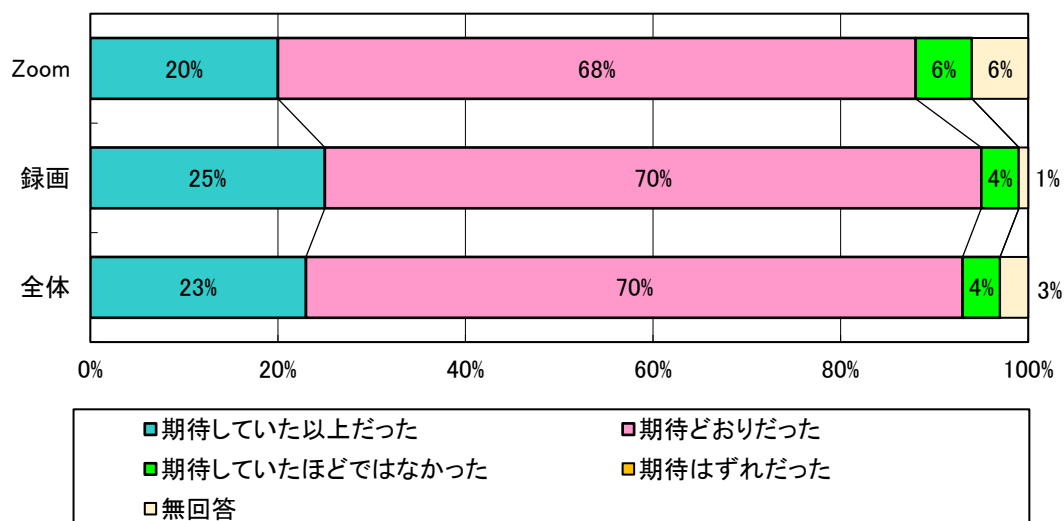
（１）講師について

選択肢	Zoom		録画		全体	
1 とてもよかった	57	(54%)	78	(46%)	135	(50%)
2 よかった	42	(40%)	90	(54%)	132	(48%)
3 あまりよくなかった	1	(1%)	0	(0%)	1	(0%)
4 よくなかった	0	(0%)	0	(0%)	0	(0%)
無回答	6	(5%)	0	(0%)	6	(2%)



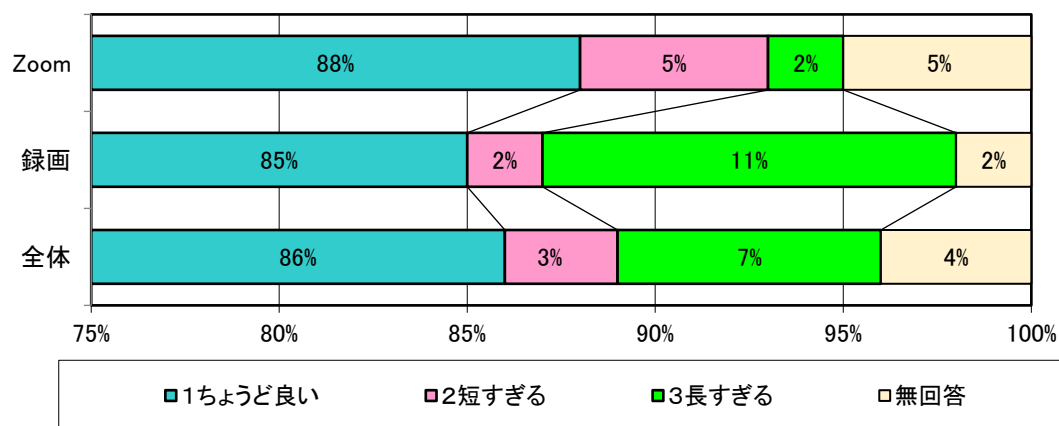
（２）内容について

選択肢	Zoom		録画		全体	
1 期待していた以上だった	21	(20%)	42	(25%)	63	(23%)
2 期待どおりだった	73	(68%)	118	(70%)	191	(70%)
3 期待していたほどではなかった	6	(6%)	6	(4%)	12	(4%)
4 期待はずれだった	0	(0%)	0	(0%)	0	(0%)
無回答	6	(6%)	2	(1%)	8	(3%)



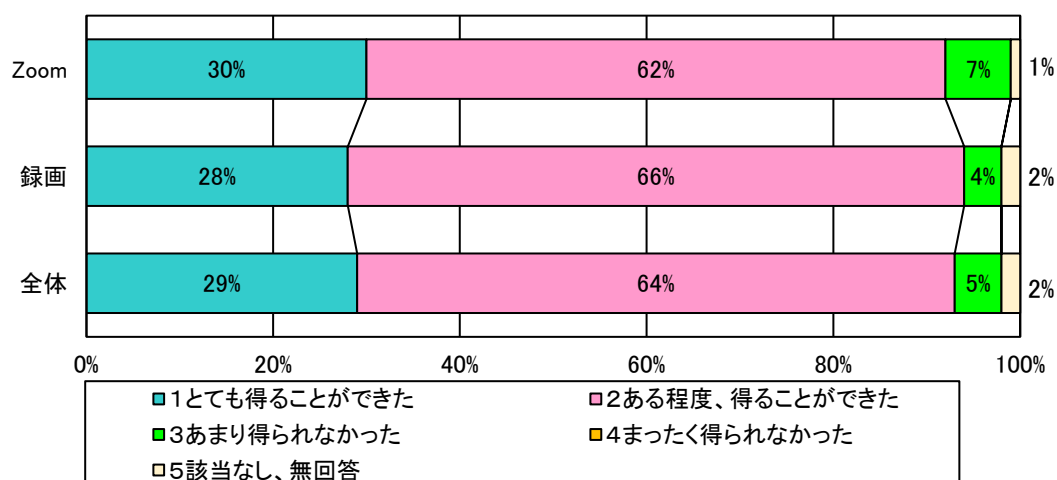
(3) 時間について

選択肢	Zoom	録画	全体
1 ちょうど良い	93 (88%)	143 (85%)	236 (86%)
2 短すぎる	5 (5%)	4 (2%)	9 (3%)
3 長すぎる	2 (2%)	17 (11%)	19 (7%)
無回答	6 (5%)	4 (2%)	10 (4%)



(4) 自身の授業内容および方法の参考となる情報・知見について

選択肢	Zoom	録画	全体
1 とても得ることができた	30 (30%)	48 (28%)	78 (29%)
2 ある程度、得ることができた	61 (62%)	111 (66%)	172 (64%)
3 あまり得られなかった	7 (7%)	6 (4%)	13 (5%)
4 まったく得られなかった	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)
該当なし、無回答	1 (1%)	3 (2%)	4 (2%)



(5) 今後希望される講演テーマについて（複数選択可）

選択肢	全体
1 今回の講演テーマ関連	147 (28%)
2 国の高等教育・教育改革の動向	71 (13%)
3 本学の教育体制・教育改善の動向	69 (13%)
4 授業やゼミ・教材開発に関する事例紹介	77 (14%)
5 成績評価と効果的なフィードバック方法	65 (12%)
6 初年次学生の教育支援	70 (13%)
7 キャリア教育・進路指導	38 (7%)

[今回の講演テーマ関連]

- ・AI をうまく使いこなせない教員にとっての当面の課題は、学生による AI の不正使用をどのように防ぐのかということです。それに関する実践的な方法を教えていただくと助かります。
- ・今回の講演内容を具体的な事例に落としたいものを知りたい。また、以前のテーマとのかけ合わせ（AI 活用×学習障害者対応）の講演も期待したい。
- ・今回の講演テーマについて、もっと深堀していただきたい。
- ・生成 AI で作成したパワーポイント、動画などを授業で使った事例があれば知りたいです。伝統的な授業よりも学生の理解がより早く進むこともあると思うので。
- ・実際に AI を活用した授業例を具体的に学び、その中で、何を学生の学びと考えるのか等の議論できるような機会があると良いように思います。
- ・スマホ世代（学生）とパソコン世代（教員）のギャップを感じています。レポート（論文）指導における学生指導に苦慮しています。
- ・今後、研究論文作成における AI の使用について踏み込んだ内容のお話をお聞きしたいと思います。
- ・AI の授業への利用や、AI 対策は切実な問題だと感じています。また同様の内容の講演を聴きたいです。
- ・生成 AI を「レポート作成」において活用する手法については、今回、かなりのことがわかった。次回以降では、「グループワーク」において活用する手法を知りたい。
- ・生成 AI の授業活用方法（教員側の注意点）や成績評価時に気をつけたいところなど、今回のテーマの第 2 弾を強く希望いたします。
- ・学生が生成 AI を使用する際の注意点を大学全体としてなるべく早く策定して頂きたいが、各教員も考慮しておくべき点について、より詳しく知りたい。
- ・AI と授業は今後も、沢山の事例を紹介してもらおうとよいと思います。

[国の高等教育・教育改革の動向]

- ・FD に当たるかどうか分かりませんが、全国の大学改組の事例を紹介してもらおうのもよいと思います。

[本学の教育体制・教育改善の動向]

- ・障害学生学習支援について、非常勤講師の先生方を含め、その実施において大学の方針が徹底されていない印象をもっています。制度があっても、実態がともなっていないと、どこかで大きな問題に直面してしまう可能性もあります。こうした問題について、あらためて現時点でのもっとも進んだ社会の実例などをご講演いただき、教員全体に周知・徹底した方がよいように思っています。

[キャリア教育・進路指導]

- ・学生が進路を決めていく過程でどのようにかわっていくことが可能か、どのようなコンテンツが大学にあると良いのか、また、卒業後の転職や人生の転機でのキャリア支援等、大学がどのようにかわっていったら良いか。事例などあれば。

[その他]

- ・高校の教育、高校の進学指導
- ・学生の新御さん（いわゆるモンスターペアレント）からの執拗なクレームに対する対応方法と大学側の体制（バックアップ）、公的な相談先などについて。
- ・高大連携の成功事例についてもお聞きしたいです。

問 2 今回の講演会で、お気づきの点、記憶に残った点、ご意見などございましたらご入力ください。

- ・生成 AI の授業導入について、どのようにすればよいのか具体的に分かったように思う。また、学生の能力向上させるためにも、教員が生成 AI と向き合い、教員自身が学ぶ必要があると感じた。

- ・AI を自身が利用する上で、大変勉強になりました。ただ、最近このような講演会が多く、しかも長時間なので通常業務に支障をきたしております。できればテキストでの配布をお考えいただけると助かります。
- ・生成AI についてあらためて認識を考えさせられました。学生は結構使用しているように見えます。これからレポートや卒論等の作成にますます利用をされると考えられますが、要は使用方法が大切であることをこの講演会をお聞きして再認識いたしました。
- ・授業に関わらない立場としては、今回のアンケートに答えるのは難しく、設問3と4については、正直「わからない」というのが答えです。生成AI の現状と課題について知ることができたのはよかったです。
- ・自分の知らない情報が多くあったので、資料を配布していただけると助かります。
- ・AI に関する基本的な知識から、現代的な問題まで、幅広いお話を伺うことができ、たいへん参考になりました。これを具体的な授業・研究にどのように生かしていけるのかが、今後の課題です。今回お話を伺って、さらに具体例など多くのことを伺いたくなりました。
- ・論文やレポートは、完成物よりもプロセスに対する評価が重要になるとの指摘が参考になった。生成AI に丸投げする学生は、論文指導に応じない学生と一致する傾向があるように感じる。つまりプロセス自体が存在しないが、現在の卒論の成績評価基準では、プロセスを評価対象にすることが難しい。今回はほぼ扱われなかったが、語学の授業も、対応が急務であると感じる。リーディング、ライティング、リスニングを、スマホの機能（翻訳、解答の生成、文字起こし）で乗り切ろうとする学生が増えている。数十人を相手に一斉に回答させるような授業は意味がなくなりつつある。
- ・まさに、現在授業で悩んでいるテーマでした。わたしも中間での小テストなどを入れています。小テストでは、マナバ上で授業中学習した大切なキーワードの選択、単語を書かせるなどをしていますが、選択はできますが、単語はほとんど書けません。手で文字を書かせることが必要だと感じています。
- ・専門的な「説明」の精度はていねいで、とても高かったと思いますが、受講者の担当部署・御専門・関心領域などによって、ほとんど意味のわからなかったかたも一定割合いたと容易に察せられます。難解語、「素人」には不要な説明の構成、構文がちよっと多く、最終盤の、実際の活動上に形となってみえてくるであろう具体例を軸に、展開いただいた方がよりためになったと思いました。
- ・改めて生成AI の使用について深く考えさせられました。特に授業での使用と学生のレポートや論文の作成について、今までは、利用に前向きながらも、具体的にどういったところにどうすればいいか戸惑うところも多かったが、運用方法を示していただいたために、大変勉強になりました。
- ・情報リテラシー教育の重要性を改めて考えました。活用法はたくさんあることは分っていますし、共存していくことになる中で、やはり基本が大切だと思います。
- ・学生たちがAI を使用することはもはや止められないという現状を、よく知ることができた。プロセスを見ることの重要性の指摘が、特に記憶に残った。但し、卒論指導等においては学生たちの個別指導を通して、学習及び作業過程のプロセスを十分把握することができるが、一般の講義におけるレポート等は、受講人数が多い場合はなかなか簡単ではない。他大学で非常勤講師として教えているが、AI 使用に関する大学のガイドラインを非常勤講師も含めて配信されている。本学においても情報関係の授業で、AI 使用に関する規定や倫理条項を学生に教えると共に、改めて本学のガイドラインをバージョンアップして、教員（専任及び非常勤）、教員への周知をはかることを希望したいと思う。
- ・レポートなどの成果物による学生評価が難しくなっていることを実感していたが、むしろ学生が成果を作り上げていくプロセスを評価すべきだという指摘は参考になりました。ただし、人数の多い授業でそれをやることは、教師の負担が大きすぎると感じました。
- ・お話を伺い、生成AI を「答えを得る道具」ではなく、「思考を促す支援ツール」として利用できればよいと思いました。学生の主体的な学びを損なうのではなく、問いの立て方や振り返りの質を高める活用を工夫したいと思います。
- ・教員はAI と協力し、学生もAI を正しく批判的に使いこなすといった中でのAI リテラシーが求められている段階にあることを改めて学ばせていただき、感謝しております。
- ・事例が多いお二方目のご発表が参考になった。
- ・これまで教師も学生も、生成AI について語ることを避けてきました。学生にはそれを使うことへの、そして教師にはそれをみとめてしまうことへの後ろめたさがあったからです。しかし講師の先生方の、もはや生成AI を使うことは避けられないという考えによって当然視できるように考えが切り替わりました。その上で、指導での使い方のアドバイスはとても参考になりました。
- ・1回では消化できないので、後で資料を見させていただきます。
- ・問題点と活用の方法が共有できた。
- ・AI との関わり方について、きちんと整理して落とし込むことができました。これからAI の利用は広がっていくことと思います。学生が利用することを前提に、課題をどのように設定していくべきか、また自身がどのように利用していくことができるのか、さまざまな学びの多い講演会でした。ありがとうございました。
- ・生成AI のヘビーユーザーが学生・教員双方で増える中、どのように使い分け、学びに生かすかが今後の課題だと感じました。
- ・何となくもやもやしていた生成AI に関して、概略をご説明いただき大変勉強になりました。このテーマについては、もう少し時間をかけて話を伺いたかったです。特に、授業での具体的な活用法や、プロンプトの作成などについて理解を深めていきたいと思います。
- ・タイトル通りの実践事例紹介はとても参考になりました。広瀬先生、豊田先生、本日はありがとうございました。大変

参考になる内容で充実した時間でした。豊田先生のオフラインでできるレポート評価のプログラム、ぜひ活用させていただきたいです。

- ・AI を利用した底上げ、スタートアップの推進力が当たり前になるのであれば、「良い」と思われるものもおしなべて統一される方向になるのかもしれないと思って伺っていました。興味深い内容でした。
- ・約3年程前から少しずつ、AI を授業などへ活用する途を探索したり、断続的に試行したりする機会をつくってきました。ただ直近の3か月ほどは進化のスピードが急激に速くなった実感もあって、次年度からはAI を主体的に取り入れた授業導線を年間を通じてデザインせざるを得ないだろう、でもどのような導線が効果的なのだろう... という迷いを感じておりました。今回、講師の先生方が様々なアプローチを試行錯誤しながらAI を積極的に導入している旨をお聞かせ頂き、様々な場で使ってみることを優先事項の一番とすべきなのだろうと理解しました。進化中の商品は完璧な扱いを目指さず、取り合えず使ってみることが必要だという基本的なことを思い出しました。タイムリーな内容のプレゼンテーションを実施して頂き有難うございました。
- ・広瀬教授のご意見について、私は、AI をすべての問題の答えとして考えるのではなく、あくまで一つの「支援ツール」として考えるべきだと賛同します。授業資料の作成にAI ツールを使うことについて、私は複雑な気持ちを持っています。一方で、AI ツールは時間と労力を大きく節約できる便利な存在だと感じています。しかし、AI に頼りすぎることに注意が必要だとも思います。これは哲学的な考え方かもしれませんが、機械に仕事を任せすぎることは、人間らしさを形作る個人性を弱めてしまうのではないかと考えています。また、「もう学生にAI を使うなどとは言えない」という豊田教授のお話にも賛同しました。さらに、盗用検出ツールは実際にはあまり機能していないという点にも同意します。最終的に盗用を見抜くのは、人間の感覚や判断力だと思います。私は英語のアカデミック・ライティングを教えています。学生には、読み手の英語レベルを意識することが大切だと伝えています。そのレベルはCEFRのB1です。もし学生がAI ツールを無意識に使って英語に翻訳すると、出力は多くの場合CEFRのC2レベルになります。それは、学生にとっても高すぎるだけでなく、口頭発表を聞く学生にとっても難しすぎます。そのため、学生は聞き手を意識し、CEFR B1 レベルに合わせて表現する必要があります。最後に、AI 技術に盲目的に頼るのではなく、授業の中で学生を導くための多くの教育基準を示してくださった点についても、豊田教授に感謝しています。
- ・生成AI を教育のサポーターとして利用する、といった姿勢がとても印象に残りました。自分自身があまり使いこなせていないので、漠然とした不安を感じていたのですが、生成AI の活用例などを知ることによって、大学生の教育に活用できる可能性が広がると思います。いい意味でたくさんのヒントを得られた講演でした。ありがとうございました。
- ・広瀬先生の「AI は考えることを奪う技術ではなく、考えるためのデータを提供してくれるツールである」という言葉がストンと落ちました。現代は、もはや「授業にAI を使うか否か」という局面ではなく、「どう使うか」を考えなければならない時代に入ってきているのだと実感させられました。
- ・生成AI を使用することで、学生にとっても、教員にとってもメリットがあることがわかりました。いろいろなことに配慮しながら、今後は積極的に生成AI の技術を授業に取り入れていきたいと思います。
- ・お二人の講演の組み合わせが良かったと思います。学生の生成AI 利用への対応も含めて、生成AI にどう向き合うかは切実な問題ですが、あまり把握できていませんでした。今回、具体的な例も含めたお話を伺い、大変に参考になりました。
- ・学生がAI を使うことは前提とすべきというのは理解していたし、自分で日々AI を使う中で、アイデア出しのようなクリエイティブな作業に非常に有益であることは分かっていました。今回の講演を聞いて、改めてAI を上手く使わせれば、これまで踏み込めなかった面での教育が可能になるという思いがしました。AI とのやり取りを学生がどう判断して選び、どういう追加質問をしてさらにやり取りし、内容を深めていくかが大事であり、そのようなプロセスが授業の中で実装できればとてもAI は絶大な可能性を秘めたツールであると思います。授業の中でどう運用するかがカギだと思います（ここが最も難しいところであり、さらに深めていきたい部分です）。
- ・「時間が短すぎる」と5-3で回答したのですが、2つのコンテンツで1時間半は短い、ということですので、その点は誤解なきようお願いいたします。年に2度しかFD講演会は認められていないのでしょうか？教員としてどのようにAI を利用するか、ということに感銘しました。豊富な実例、経験談が説得力がありました。
- ・自分がまだ生成AI を検索時での利用程度で、文章作成には利用していなかったのが、学生がどの程度駆使しているかイメージが湧かなかった。ただうかがったお話しから、授業最後の自筆のリアクションペーパーも、その場でスマホでサッサッと生成AI を利用してそれを書いているのかも？と、いままで意識のなかった疑念が出てきた。こちらも時代に対応できる知識は身につけ、有効な利用を検討したいと思った。
- ・AI の扱い方についてとても悩み困っていたので助けになるトピックを挙げていただきました。効率よく利便性があることは分かりましたが、しかし、学生個人を正確に評価しようとするなら、AI があるがゆえにかえって増える手間や時間があるように感じ、もどかしさを禁じえませんでした。レポートなのか、卒論なのかでも対応は大きく異なると感じます。来年度の卒論指導は今までは違う指示や方法を考えてみたいと思うきっかけになりました。
- ・お二人の講師の先生方のお話が、全体を通して大変興味深かったです。AI について、歴史をふくめ網羅的に現状を把握することにやや困難を覚えていたので、廣瀬先生にはそれらに対する明確な回答を頂けたように感じました。私自身、学生たちとの対話の中で、彼らの生活環境にはAI が深く浸透していることを実感する場面がこの1年で飛躍的に増えていたので、AI の過信や依存の問題というお話と実によく符合するように思いました。人間に対するよりも深い友情や愛情をAI に対し抱いている学生も散見され、心理学者としてこうした問題について今後どう向き合うべきなのか、あれこれ考えていたところでしたので大変参考になりました。今回のお二人のご講義を通じて、教育場面での活用

はもとより、具体的にどのような点に注意しながらAI と付き合っていくと、人間が豊かに学び、暮らしていけるのかどうかのヒントを得られたように感じています。自分でも使ってみて、また考えてみたいと思います。本日は本当にありがとうございました。

- 様々な分野に特化（対応）したAI ツールがあるようなので、使用そのものを制限することはナンセンスなんだろうと実感した。一方、いろんな取り組みをうかがっていると、人間がAI を活用すると言いつつ実際にはAI に寄っていつている感じも受けた。教員・学生の相互作用だけでなく学生間の相互作用が人間成長に与える可能性を考えると、女子大学の生き残り対策も兼ねて授業のさらなる少人数化や1 授業2 コマでの実施（集中演習）を取り入れることによって、AI をはじめとするツールとアナログ教育を併用するのもありなのかなと考えながら話をうかがっていました。
 - 学生、教員ともに生成AI を利用することが避けられないこと、そして生成AI をいかに活用すれば良いかについて学ぶ有意義な機会になりました。ご講演ありがとうございました。
 - これまでに、本学の過去のFD 講演会も含め、生成AI に関する研修会や講演を聴く機会が増えてきました。また、自分自身でも生成AI を使用してみる機会が出てきていたので、今回のご講演内容はとてもよく理解でき、授業への示唆も多く得ることができました。思っていた以上に、ニーズに合わせたたくさんの生成AI があることがわかったので、今後の授業に生かしていきたいと思います。
 - AI に向き合う姿勢が何より大切であることが再認識されました。
 - AI の利用方法について、利用方法を学生へどのように定義しておくか、という部分が非常にわかりやすく解説がなされ、今後の参考になりました。
 - タイムリーで大変参考になるテーマでした。録画視聴できることも有難いです。内容も盛り沢山でしたし、学期末で何度もゆっくり拝聴できるような時間もなくて、後日また視聴できたらありがたいと思うのですが、この録画は来月以降も随時視聴できるのでしょうか。
- ➡学内教職員サイト「FD 関連」からご覧ください。
- 生成AI 利用に関する注意事項はどこで配布されているのでしょうか。また、利用に関するガイドラインを发出している大学もあると思います。成績評価にも関わる点なので、本学でも出していただけるとありがたいです。
 - 参考になりました。ありがとうございました。
 - 私自身も生成AI を用いて投稿論文の英文校正などを行っているが、それをどのように授業に活かせるかについては悩んでいるところだった。今回、専門家の先生および授業で実践されている先生方の話を聞いて、生成AI を用いた授業についての具体的なイメージを持つことができた。学生に対して、ガイドラインを示し、生成AI のメリットとデメリットを確認しながら、「学習目標に結びつけ」つつ、倫理的・適切な利用に関する教育こそが重要であることを学んだ。生成AI を用いる際のリスク（誤った情報を生成する可能性、著作権、公正性）などについてはきちんとしたガイドラインが必要であり、こうした問題があるという点を学生たちに周知する必要があると実感した。それにしても、都立AI については驚きであった。つまり、高校生の時点ですでに使いこなしている学生たちが東京都には多く存在しており、使い方についてははるかに習熟している可能性がある。こうした情報を知ることでもできてよかった。いかに活用して役立てていくか、手探りであるが、学生の学習スキル向上のために今回のFD 講演会で提示された教授法を活かしたいと強く思った。
 - ちょうど卒業研究提出の時期で、学生のAI 利用への対応に悩んでいたタイミングだったこともあり、大変参考になりました。また教員側の具体的な活用例が挙げられていたのも良かったです。今後の指導に反映したいと考えています。
 - 生成AI のレポートへの利用について悩んでいましたので、大変参考になりました。特に答えの評価よりプロセスを評価すること、思考力・創造力・倫理観を育てることの重要性を感じ、教師側も評価の基準を変えていく必要があることを理解しました。講師側も今後生成AI を利用していくことを考慮していこうと思いました。
 - 教員がAI を活用して授業資料を作成する、採点するといった発想がなかった。先生方も仰っていたが、そのようになると何のための大学なのか分からなくなってしまいそうです。過程が重要というお話しでしたが、その通りだと思う。一方、当面は豊田先生が提案されたAI を使わせない環境の維持も大切かと思います。
 - 講演の中でいくつかのアイディアを提案いただきましたが、非常に有効ですぐに実践できる、と思えるものは残念ながらありませんでした。とくに大人数の授業でどのようなAI 対策が可能なのか（あるいは難しいのか）が知りたかったです。
 - 豊田先生が生成AI をもちいたレポート採点・レポートフィードバックの仕組みをつくられており、特に刺激を受けました。実際の授業で使用された感想なども伺いたいと思いました。
 - 広瀬先生のお話は、全くの初心者には少しついていけない部分もあったが、これはこちらの問題かとも思う。お二人ともにそれぞれご担当の内容が決まっていたと思うが、豊田先生のお話は、教育の現場で生成AI に関しての専門知識がなくてもすぐに実施できるような具体性があったので理解が深まった。このテーマは、これから取り上げてほしい。
 - 避けられない問題だったので、勉強になりました。実際に使ってみることで課題も出てくるとは思いますが、まずは嫌がらずに活用してみるところから始めたいと思います。使い方だけでなく、講演者がおっしゃっていたように学習者の学びがどこにあるのかも理解していく必要があると感じました。
 - 今回のFD 研修では、生成AI を授業の中でどのように位置づけるかについて、技術面と教育実践の両面から考えるきっかけを得ました。生成AI が大量のデータやモデル構造に基づいて応答を生成しているという点を踏まえると、その出力をそのまま正解として扱うのではなく、教員・学生の双方が内容を評価しながら活用することの重要性を改めて意識しました。また、生成AI の利用を前提とする場合と、あえて利用しない環境を設定する場合のいずれもが、授業設計の選択肢として考えられる点は、自身の授業を振り返る上で参考になりました。

- ・教育に関する AI の良い面や課題を深く理解することができました。具体例な実践例を教えていただき、今まで AI に対し不安や課題を持つことが多かったのですが、使い方や示し方次第では効果的になることがわかりました。これから生成 AI を使用しないことにはならないと思うので、使える部分はうまく使いながら行っていきたいと思います。プロンプトの設定など、非常に参考になりました。
- ・学生がレポートを AI を使って作成しています。記述式の期末レポートなのに、皆、同じ論調になっており頭を痛めています。今回の講演会で、問いの出し方の工夫が必要であることを痛感しました。
- ・今回はお2人とも駆け足で話されていたようでしたので、お1人ずつの講演でも良かったように感じましたが、お二人から興味深いトピックを多く聞くことができたのは自分で調べるための良いきっかけとなりました。
- ・講義の資料（スライド）が頂けましたら幸いです。もっと良く理解できると思います。
- ・内容的にはおおむね承知していることではありましたが、ファカルティや大学全体で問題意識を共有し、どうやって効果的に活用していくかという検討のベースとして広く共有してほしい（いきたい）講演として、実施していただいていたことが良かったです。
- ・やはり今後の流れとしては、AI の使用を禁止するのではなく、AI をいかにして正しく／効果的に使わせるかを教育するのが自然なのだと再認識した。ただ、「AI を使ってズルをする」学生への対応はそれとは別に考えていく必要があり、また、ある程度大学全体でルールがあった方が良いのではないかと感じた。
- ・お二人の先生方どちらの講演も大変参考になりました。
- ・学生が AI を使用してレポートを提出してくることに頭を悩ませていたので今回の講義で対応のヒントを頂きました。ありがとうございました。
- ・近年は生成 AI を利用したと思われるレポートも散見され、今年の担当授業ではレポートを課すことをやめました。しかし、生成 AI の利用を前提としたレポート作成課題というのもありうるのだと知り、とても参考になりました。尤も、知識の整理・要約のような課題であれば生成 AI を使うと依存になってしまうので、やはり生成 AI の利用に向いている分野とそうでない分野があるのだということも理解できました。とても有意義でした。
- ・生成 AI の授業での使用方法
- ・生成 AI が登場してから様々な変化がある中、現時点でビジネス分野ではどのくらい導入が進んでいるのか。また、どのように活用されているかという点とともに、有効な活用法や留意点を知ることが出来ました。実際にプロンプトを使う際のポイントについても伺いましたが、早速実行してみたいと思います。大学での活用については、現状記述式のレポートについては人数の多い授業で頭を悩ませています。豊田先生から採点支援のローカル LLM のご紹介がありましたが、今後学内全体としてもどのような考え方に基いて行っていくべきなのか、検討する必要性もあるかと思われます。
- ・コンピューターについて詳しくないので、お話の中でわからない用語があり、話が頭に入ってこなかった部分があったので少し残念でした。お話を聞き、やはり生成 AI を回避する方法としては、考えなどを授業中その場で手で書かせるということが一番なのかなと思いました。学生にとっても、生成 AI の活用は必要だとは思いますが、やはり、どこまで AI に頼っても良いのかというある程度の基準が示されると教師のほうも気が楽だなと思いました。
- ・具体的な内容で、授業設計を考える上で参考となる視点が多く勉強になりました。一方で、人文系授業では、AI の活用や制限は容易ではないという印象を得ました。レポートや卒業論文に際しての、学生向け AI 使用ガイドラインのような指針があると重宝します。
- ・プロンプトの語彙選び、AI を使用させる場合の学生への周知（自分の意見を記述させる大切さ）
- ・教員として、AI を活用しながら教育効果を上げていく方策を真剣に考えていかなくてはならないと思った。そのために、さらに AI に関する知識や情報を収集し、授業の改善につなげていきたい。
- ・授業への生成 AI の活用
- ・お話を伺い、AI が教育現場にもたらす可能性の大きさを改めて実感するとともに、その可能性を現実のものとしていくためには、私たち教育に携わる者が、まず主体的に、そして深くこの技術とその本質と対話していかなければならないという、強い使命感を覚えました。確かに、AI の教育活用に際しては、慎重に考え、対処すべき課題が山積していることも、具体的に挙げられた通りです。例えば、生成 AI による著作物の剽窃や不正利用の問題、学習者が AI への過度な依存により自らの思考力や創造性を育む機会を損なうリスク、また、アルゴリズムのバイアスが評価や学習支援に潜り込み、公平性を損なう可能性など、枚挙に暇がありません。さらに、学生の個人情報や学習データの取り扱いに関する倫理的・法的な課題も、極めて重大です。これらの問題は、決して軽視できるものではなく、むしろ教育の本質に関わる核心的な問いを私たちに投げかけていると言えるでしょう。しかし一方で、力強くお示しになったように、AI は、これらの課題に目を閉ざす理由ではなく、それらを注意深く管理・検討しながらも、前向きに取り組むべき「教育のパートナー」として登場したのです。具体的には、AI による個別最適化された学習支援は、従来の画一的な授業では対応が難しかった、学生一人ひとりの理解度や興味・関心に沿った学びの道筋を提供する可能性を秘めています。また、研究面では、文献の分析やデータ処理、仮説生成の補助など、研究者の創造的な作業を大幅に加速させるツールとして機能しつつあります。教育事務の効率化によって、教員が本来の教育的対話や教材研究に割く時間を確保するなど、間接的でありながら教育の質を高める貢献も見逃せません。重要なのは、AI を「敵」や「単なる便利なツール」と矮小化して捉えるのではなく、先生が強調されたように、「教育の在り方そのものを再構築するための触媒」として捉え直す視点ではないでしょうか。AI の登場は、「知識を伝達する」ことから、「知識を活用し、新たな価値を生み出す力を育む」ことへ、教育の重心を移行させる大きな契機となります。その転換期において、私たち教育専門職が果たすべき役

- 割は、むしろより重要かつ人間らしいものになると確信します。それは、AI には代替できない、批判的思考、倫理的判断、共感に基づく対話、学問への情熱を伝えることなどにほかなりません。
- ・生成 AI を、大学の授業に対するネガティブ要因ではなく、ポジティブな契機として活用するためのヒントが得られた。とくにレポート作成における活用（動画の 32 分台）など。
 - ・AI をいかにうまく利用して教育に活用していくのかを学んだ、生成 AI の仕組みからわかりやすく説明いただき、教育において活用する際の有効性と注意点なども含まれた講演で大変参考になりました。
 - ・学生がレポートや卒論を執筆する際に、生成 AI をどのような目的、範囲内で使用すればいいのかは、早急に方針を定めた方が良くと改めて痛感しました。その中で、今回の講演は大変有益なテーマ・内容であり、条件付きで使用を認めるメリットが再認識できました。ありがとうございました。ご講演、大変ありがとうございました。
 - ・豊田先生のこれからの教育は対面を重視し、平常点や口頭試問を活用するというご意見に賛同しました。
 - ・すでにレポートやコメントペーパー、発表で生成 AI に丸投げの学生たちが多数いるなか、多い人数の学生に一人ひとり向き合い、過程をみていくことはもうできない状況です。たとえば、インタビュー調査をしたとしてレポートや卒論を書きながら、インタビュー調査のデータを求めると出せない（すでに破棄したと主張）、文章として使っている単語や表現の意味を聞いてもわからないと答えるなど、一人二人の現状ではないです。大学全体で、学生向けに生成 AI で作成したレポート（文章）を自分のもののように提出するのは不正になり得るなど、生成 AI をめぐる倫理、方針、注意などをはっきりと出す必要があると思います。また、教員がどのように対応すればよいかの準拠点／基準点など、参考になりそうな指針も欲しいと思います。個別の教員が判断することももう手におえないほどの状況になっていると実感しています。
 - ・ここ 1 年で学生が生成 AI を使うことが当たり前のものになりましたが、課題などの手抜きのために使う者がほとんどです。今回紹介されたような使い方は、参考にはなりましたが、本学学生のほとんどにとっては程度が高すぎるもので、現場レベルで調整する必要があるかと思いました。ありがとうございました。
 - ・やはり課題の作り方が勉強になった。一斉に口頭試問をするという方法は思いつかなかったので、今後の参考にしたい。
 - ・今回のテーマは、私自身がまさに現在進行形で現場にて直面する課題でもあり、ご登壇の先生方の詳細なお話が非常に興味深く参考になりました。こうした機会をいただきありがとうございました。
 - ・使用できる生成 AI の数の多さに驚いた。学生は 100% 使用するものだと考えて、授業の進め方や評価方法を今すぐに考える必要があることを痛感させられた。
 - ・（1）生成 AI の活用法を、具体例とともに、わかりやすく説明してほしかった。（2）前提概念の説明から、初めてほしかった。（たとえば、encoder/decoder の区別など）（3）都立 AI が 16 万人に活用されていることに驚いた。大妻に入学した都立高校卒業生は、本学に相当物がないことに驚くのではないかな。
 - ・生成 AI につきまして、基本的な内容から授業に活用できる内容まで、幅広い分野で新たな知識を得ることができました。ありがとうございました。
 - ・生成 AI のメカニズムについて：生成 AI → 入力したプロンプトの理解のメカニズム → 回答の生成メカニズム → 回答文章の生成メカニズムといった一連の流れを LLM やトランスフォーマーがどのように関与しているかももう少し詳しく説明して頂きたかったです。
 - ・生成 AI とどう付き合うかは継続して考えていかないといけないと改めて感じました。
 - ・とても参考になりました、ありがとうございました。
 - ・生成 AI はこれまでの Office ソフトと同じような立ち位置になっていくのかなと思いました。なので授業としてもしっかり使い方をガイドしたうえで積極的に利用するのが良いかと思い、今回の内容を早速活かしたいと感じます。
 - ・プロンプトを紹介くださったので、自分でも活用しようと思います。学生にどのように生成 AI を使わせるのかについては、ある程度の共通認識を持てるとよいと考えており、継続して検討していただければと思います。
 - ・AI に対応した試験問題の作成について
 - ・学生が生成 AI 利用にあたっての注意事項やその評価についてとても良い知見を得られた
 - ・自分の知らない情報を色々と得ることができてよかった。まだまだ、多くの教員が生成 AI との付き合い方を試行錯誤していることも認識できた。
 - ・学生が生成 AI を使用してレポートを提出してくることについての悩みは他の先生方からお聞きする共通の課題であり、今回のテーマは大変タイムリーで有意義な講演であったと感謝いたします。中でも、豊田先生のお話は、まさにそのポイントに合致する内容であったと思います。質問はございません。今後は個人情報などもクリアしながら事務部門でも活用することが増えていくと思います。
 - ・参考になるご講演、まことにありがとうございます。ご講演の広瀬先生、豊田先生まことにありがとうございます。また、ご企画と運営にあたった皆様に感謝申し上げます。1、個々の教員が教育の中で生成 AI をどう活用するかはもちろんですが、広瀬先生が都立 AI のとりくみを挙げていたように、全学的なガイドライン類（教員向け、学生向け）を整備する必要があると感じました。大学全体としての制定をお願いできればと思います。2、両先生のご講演内容、メモを取ることができなかったで、スライドを pdf かなにかで公開していただけると幸いです。広瀬先生のループリックやプロンプトの基本要素、豊田先生の生成 AI による教材開発支援で生成 AI の使い分けなど、参考にしたい内容が多かったので、ぜひお願いできれば幸いです。
 - ・生成系 AI のおおまかな考え方（仕組み）や企業での活用、教育現場での学生・教員それぞれの立場からの利用やその注意点を解説していただき、概略を把握できました。私自身、学生には生成系 AI をアシスタント的に活用するように

促しており、その方向性を続けつつも、どのように過度な依存を防ぐのか、仕組みづくりが求められると感じます。なお、(私自身の勉強不足に起因して)先生方が紹介された専門用語や考え方の前提などが分からず、解説を理解しきれない部分もありました。今後、自分自身でも生成系AIへの理解を深める必要があると実感しました。

- ・専門的な「説明」の精度はていねいで、とても高かったと思いますが、受講者の担当部署・御専門・関心領域などによって、ほとんど意味のわからなかったかたも一定割合いたと容易に察せられます。難解語、「素人」には不要な説明の構成、構文がちょっと多く、最終盤の、実際の活動上に形となってみえてくるであろう具体例を軸に、展開いただいた方がよりためになったと思いました。
- ・教育における生成AIの問題について二人の発表者から話を聞き、自分の経験や思っていたことを確認することができた。学習のプロセスを重視しつつ、教育に生成AIを取り入れることの重要性を理解した。生成AIの能力は日に日に高まっており、今後統制が効かないほどの化け物になるのではないかと、というのが、発表を聞いた感想である。私たちが日々感じていること以外の専門家による知見というものが出しにくい道具ではないかと思った。テストを作ってくれるAIなどについてもっと聞きたいと思いました。
- ・学生のAI利用についてのガイドラインが必要と感じました。
- ・生成AI利用に関する注意事項はどこで配布されているのでしょうか。また、利用に関するガイドラインを発出している大学もあると思います。成績評価にも関わる点なので、本学でも出していただけるとありがたいです。
- ・AIの使い方について参考にできた。一方で授業で使うにあたっては状況に応じてその方法を考える必要があると改めて感じた。学生も教師も、どんな状況で、どんな目的で、どのように使うか、を体験していくしかないことに変わらなないと認識した。ためになる講義、ありがとうございました。
- ・今回のFD研修では、生成AIを授業の中でどのように位置づけるかについて、技術面と教育実践の両面から考えるきっかけを得ました。生成AIが大量のデータやモデル構造に基づいて応答を生成しているという点を踏まえると、その出力をそのまま正解として扱うのではなく、教員・学生の双方が内容を評価しながら活用することの重要性を改めて意識しました。また、生成AIの利用を前提とする場合と、あえて利用しない環境を設定する場合のいずれもが、授業設計の選択肢として考えられる点は、自身の授業を振り返る上で参考になりました。
- ・学生がレポートをAIを使って作成しています。記述式の期末レポートなのに、皆、同じ論調になっており頭を痛めています。今回の講演会で、問いの出し方の工夫が必要であることを痛感しました。
- ・講義の資料(スライド)が頂けましたら幸いです。もっと良く理解できると思います。

➡UNIPA 掲示の期間は終了したため、ご入用の旨、教育支援グループへご連絡ください。

- ・今後、授業でのAIの活用について考えるよいきっかけとなりました。ありがとうございました。
- ・生成AIについての知識があまりなかったので、とても勉強になった。
- ・プロンプトの語彙選び、AIを使用させる場合の学生への周知(自分の意見を記述させる大切さ)
- ・生成AIとどう付き合うかは継続して考えていかないといけないと改めて感じました。
- ・生成AIの教育の利用のあり方という大変重要なテーマを取り上げていただいたことは大変感謝申し上げたい。一方、同じ学部でも教員間の理解度、利用度には大きな開きがあるように思われ、自身にとっては新たな学びはあまりなかった。そもそもインターネットが登場してきた時点でありきたりなテーマでレポートを書かせる意味が既になくなっていくことに留意する必要がある。また、AIの利用とその添削、採用などを報告することをレポート課すすべての授業で行うのは学生、教員にとっても負担。むしろ、学部全員が参加する授業で演習形式で生成AIの使い方を指導する機会を何回か確保すべき。
- ・この1年で学生が生成AIを使用すること(特に卒論時)も珍しくなくなった。講演会でもお話があったが過程を重視することがこれまで以上に必要となると思われる。教員はこうした現状をキャッチアップする必要があるが、FD講演会のみでは必ずしも対応が追い付かないような気がしている。今後は、学外の講習などを受講する制度をつくるなどし、教員が新しい教育手法を学ぶ機会を設ける必要があるかもしれない。
- ・自分の知らない情報を色々と得ることができてよかった。まだまだ、多くの教員が生成AIとの付き合い方を試行錯誤していることも認識できた。
- ・学生への生成AIリテラシー教育の必要性は極めて大きい。そのために広く深い議論がなされなければならないと思う。
- ・生成AIを授業にどのように使うか。具体的な事例を伺うことができて参考になりました。AIの使用を踏まえ、学生たちの判断や説明などを段階的に聞きながら進めていきたいと思いました。
- ・AIを利用する学生に対する指導について、我々もこれから創意工夫する必要があり、まだまだ難しいポイントもかなりあることが再確認できた。
- ・生成AIの活用とそれに対する対応の仕方を学ぶことができた。時期が卒論締め切り直前で少し時期を考えてほしかった。
- ・生成AIの授業での使用方法と学生に周知すべき注意点を知ることが出来た。「フェーズを記録として可視化し、どのような理由で自分が意思決定したのか」を確認すべきという指摘もあったが、残念ながら十分に吟味しないまま提出されたレポート・卒業論文が今年度散見された。また、「学習の効率化」の一例としてプログラミングが挙げられていたが、人文科学分野でも「学習の効率化」につながるのかどうか、疑問点として残った。
- ・豊田先生の講義がとても分かりやすかったです。
- ・既に卒業研究の準備段階のレポートなどから、AIを利用したものが増えていたことから、2025年度の卒業研究指導では、AIを利用した論文の書き方を工夫している。全面的に依存して文章を書くと、現在のAIレベルでは参考文献やそ

の引用ページが明示されないので、AI を使ってまとめても、参考文献のページ、利用した企業HP の URL などを出典注で明記するように指導している。今回の講演でも、そうした使い方が適切なのだろうという方向性を確認できたのがよかったと思います。

- ・とても勉強になりました。ありがとうございました。
- ・AI のシステムの説明（エンコーダ、デコーダ、トランスフォーマ等）が分かりやすく、自身の理解に大いに役立ちました。また、飛躍的に機能が上がったAI に対して、教員や学生がどのように「利用すべきか」を再考するきっかけにもなりました。AI は、利用者からのプロンプトと既存の情報をもとに、「それらしき文章（情報）」を生成できますが（ビジネスにおいては広く活用可能）、本来「学ぶ」という概念には、能動的な情報の入手・選択・加工と、自らの知識を加えた考察や知見の整理、それらのまとめを他者に伝える出力が必須です。一番のポイントである「考察や知見」を組み立てられる能力を育成するのが教育であり、それをAI に任せるべきではないと再確認もできました。「あなたが考えたことをまとめてください」という投げかけだけにならないような教育手法を組み立てるべきだと確信できました。
- ・卒論やレポートでのチャットGPT の使用の課題がある昨今、学生が用いる「チャッピー」がどのようなもので、どう考えたらいかがか理解できた。また、我々がそれをどう活用でき得るのかについても示唆を得ることができた。
- ・お話を伺って、改めてAI を学生が使っているという前提で授業や成績評価をしていくことを考えていかなければいけないと思いました。大変勉強になりました。ありがとうございました。
- ・AI の話題はこれから避けて通れないトピックスですし、自分も興味があるので、とてもためになりました。事務局の方へ、音声小さく少し、ボリュームを大きくすると音が割れて聞き取りにくかったです。自分が使う時に物事の構造解析や、データ分析、要約にはとても役に立つと思うが、それを授業や基礎実験のレポートで生かすことにまだイメージが沸きません。また課題を出す時に、最初から学生にAI ありきでレポートを書く指示を出すべきか？言わなければ使う・使わないは自分の判断になるので。必ず、AI の回答と自分の考えが最期一致しているかどうかを確認する必要があります（かなりズレている、特に感性の部分や、時系列など）、余計に手間がかかっている印象がまだ強いです。糺、要約についてはポイントが絞られて、整理をするのにはとても役に立ちます。
- ・生成AI がどういうモデルで学習しているのか、ということについて学べたのがとても良かったです。一方で、生成AI の使用を学習に生かすということに関しては、「やはりこんなものはそもそも存在しない方が、人間が学習をするということに関しては良かったのではないか」と思うところがあり、多少後ろ向きな気持ちになってしまいました。
- ・基本的なところからご説明くださったので、とても理解が進みました。お二人とも「授業の目的を達成すること」を第一に挙げていた点が印象的でした。一方で、レポートなど面接のできないものについてどのように対応したらよいかはやはり悩みとして残ってしまったので、文系の先生方がどうされているのかが気になりました。
- ・教育現場の課題は、禁止することや使わせなくすることではなく、学習目標と結び付けて考えること。授業で学生に指導する基本ルールやレポート、文章の校正に関して具体的でわかりやすく、今後活かしていきたい。
- ・今回の研修を通して、AI が普及する中で、教員自身がAI リテラシーを身に着けることの重要性について改めて考えられました。単に活用するだけでなく、批判的にとらえる視点を育てることが必要だと感じました。学生に対して、どのように判断するか、どのように責任を持つかを指導することが、これからの教員の重要な役割になると思います。AI を敵視するのではなく、学習支援や業務効率化に前向きに活用していく姿勢が大切だという点も改めて思いました。

以上